

【報
告】

宮川寅雄の近代美術史

宮
田
徹
也

一、はじめに

「われわれは、自分とは異なつた文化や過去の歴史を考察するとき、自分自身の属する文化のもつている価値観や枠組をそのまま無反省的に持ち込んで、それを前提に議論を出発させてしまいがちである。それが高じると、本来一つの文化や時代の枠を出ないローカルな存在であつたはずのものを、そのまま「普遍性」のレヴェルに横滑りさせて、あたかも文化や時代の制約をこえて、誰の目にも同じようみえる「客観的事実」であつたり、あらゆる文化に共通の「原理」であつたりするかのよう論じてしまふ、論の「すりかえ」が発生することになる」（渡辺裕『西洋音楽演奏史論序説』春秋社、二〇〇一年、二七頁）。

宮川寅雄（一九〇八一—一九八四）は単行本として『近代美術とその思想』（理論社、一九六六年）、『近代美術の軌跡』（中央公論社、一九七二年）、『美術史散策』（恒文社、一九八七年）を遺したが、いずれも雑誌などに掲載された文章を集めたものに過ぎず、体系的な美術史を描くことはなかつた。しかし、宮川の文献を読み進めると、そこには宮川による美術史が立ち上がってくる。それを体系化することは、体系化を嫌がったヘーゲルの文献を体系化したという愚行に等しくないように、大筋の流れをまずは見出すことに努めなければならぬ。または、相当の読み込みが不可欠になる。ここでは、宮川の独自性を強調することに、まずは、留めたい。

私は「著作目録」（『宮川寅雄著作目録』、『宮川寅雄著作目録』を刊

行する会、和光大学人文学部芸術学科、一九八五年）を二〇〇二年に調査、収集したコピーを基に「過去と未来の狭間」という文章を二〇二二年に書いた。これは、二〇二三年発行予定の『必滅と不滅』Ⅰ（論創社）に収められる。ここでは新たな見解を加えた。「著作目録」には単行本十八件、会津八一全集関係三二件、共著・編者・監修九五件、新聞、雑誌、単行本八九五件が記されている。「著作目録」に誤植は殆どない。私の手元に九割あり、新発見も数十件あるが、ここは文献の精査が目的ではない。いずれ、宮川家に残されているスクラップ・ブックとつき合わせ、更なる著作目録を編む予定はある。

宮川寅雄本人の活動や人物像のヒントになる文献は、『宮川寅雄著作目録』収録の「自分のこと」や、「宮川寅雄のこと」刊行委員会が編集・発行した『宮川寅雄のこと』等があり、更に調査を進める必要があるが、ここでは宮川の文献から読み取れる宮川の近代美術史の研究に留める。岡倉覚三から稿本日本帝国美術史を経て様々に展開した明治期までの「日本美術史」、渦中にある批評者達が立ち上げ、主に「学芸員が生成した「戦後美術史」も完成されることはないであろう。定番と化した「日本近代美術史」と宮川の美術史の比較考察は、行わない。ともかく、宮川の文献と向き合い、宮川が日本の近代美術をどのように感じ、どのように思っていたのかを客観的に分析するノートにしたい。

二、書かなかつたこと

宮川自身が「自分のこと」で、「戦前に書いたものはすべて湮滅し

てしまったので、戦後の執筆、印行のものばかりであることと、なかには生計のために書いた片々たる文章も多くあつて、それを削るのに骨が折れた」（七三頁）とある。宮川が削った文献を再録する必要がある。文献自体以外にも、宮川が「書かなかった事項」というものが幾つも存在する。例えば、宮川が和光大学で教鞭を執っていた頃に在籍した、関水英司（画家）が宮川について思い出したことを教えてくれた。

「宮川先生の授業でいくつか覚えていたことなのです。先生は授業の中で演劇についても話しをしてくれたことがありました。「ゴドーを待ちながら」の不条理劇について、授業と全く関係なく話しをして下さいました。多分、皆何にも知らないから必死にメモっていたのだと思います。教室がシーンとなつて、静まりかえり、誰もひと言も発しないのが暫く続き「なんだ、君たち知らないのか。だったら、読んでご覧なさい。」」

「皆あんまり静かなので、次にプールの話しが出て来て、やはり当時の舞台背景のような話しから、「スワン家のほうへ」の当時のパリのゴシップ、パリの金持ち達の体たらくな状況を話してくれ、そうしたら教室はだいぶ盛り上がりつてきて、セーヌへ入水する（落水して自殺する）若い女性を船遊びと称し、などの実話も多く登場しました。」

「そこから今度は話しが日本になり、浅草オペラに移りました。日本の知識人の若い頃の遊びとかも出て来て、女義太夫の上演になると「どうする、どうする、どうする連!!」と宮川先生は叫びました。僅かの金で一日中、浅草オペラ座で遊び惚けていたのが、当時一高生

だった、川端康成だつたと教えてくれました」（Eメール、二〇二三年一月八日）。

遺族が以下をコメントしてくれた。「浅草にオペラ館はあつたが、浅草オペラ座は存在しない。父の授業は実に間違いが多いのです。そういう人なのであつて、それもその人を考えるよすがであらうかと思えます」（Eメール、二〇二三年六月三日）。不条理演劇、フランス文学、川端康成について宮川が残している文献は、存在しない。

宮川は同時代を生きた画家について高山辰雄、中川一政、平山郁夫くらいしか論を残していないが、文献の随所に画廊周りをしていたことを書いている。これは美術画廊だけではなく、書や工芸の画廊も含まれているのであろう。つまり宮川は多くの現代アーティストの作品を見ていたのである。それが何故語られなかったのかという理由は別に、宮川が同時代の作品にも眼が向いていたことが大切なのである。または、当時の映画、音楽などに対する少ないが、細かい記述も存在する。宮川は同時代のあらゆる芸術、若しくは芸術と呼ばれていなくとも芸術である、人間の営みについて、目配りしていたのだ。この広い視野を前提とした上で、宮川寅雄を捉え直さなければなるまい。

三、取り上げた項目

宮川は、何を取り上げてきたのか。『近代美術とその思想』の目次は以下である。「Ⅰ日本近代美術の断面／Ⅱ創造と文化遺産／Ⅲ初期社会主義の美術／Ⅳ近代画家論／Ⅴ天心・漱石・秋艸道人」。『近代美術の軌跡』の目次は以下である。「近代美術叢考／日本近代美術素描

／明治ナショナリズムと岡倉天心／現代書人論／現代中国と美術」。
単行本は岡倉天心、東ヨーロッパの旅日記、会津八一、中国美術である。

文献を見ると岩村透、長谷川利行、鬘光、小川芋銭、魯迅などの【近代美術関連】、葛飾北斎、円空という【近代に影響を与えた作品】、鑑真和上と唐招提寺、法隆寺といった【古美術】、会津八一などの美術には含まれない【書や工芸】、良寛、田岡嶺雲、福田栄一、狩谷楨斎などの【文学関係】、労働組合、明治社会運動、文化大革命、奈良旅行ブームといった【近現代史】、社会主義、片山潜、幸徳秋水、北一輝などの【思想】、【文化史】、【歴史】。古文物から現代美術までの【中国美術の動向と研究と作品】、トンカツ、コロケ、切手、ジャズなどの【日常生活】、自らが嗜んだ【歌、書】を主に挙げることできるであろう。

無論、これはキーワードで見つけただけに過ぎず、内容は更に多岐に亘る。土方定一も同様で、タイトルから全く異なる地点へ展開する場合が、宮川にも多々ある。つまり文献を一件ずつ丁寧に読み解き、何が記されているのかといったキーワード一覧を作成することが不可欠となる。しかし、キーワードを頼りにする訳にはいかない。例えば以下の記述を「画家名」「中国」だけに留められない。

鬘光が「かれが自己の絵画に賦与した論理性、構造性は、かれの志向が、むしろ中国の伝統を軸にしていることを推定させる」（『鬘光論』、『近代美術とその思想』二六一頁）。「由一の上海滞在は、伝統日本画と日本洋画との、微妙な交流を背景としていた」（『日本近代美術素描』、『近代美術の軌跡』九六頁）。この二つは、近代画家と当時の

中国との関連性についての記述である。

島村洋二郎（一九一六―一九五三）という画家がいる。東京に生まれ、里見勝蔵を師事し、晩年は自由美術で当選と落選をくり返し、読売アンデパンダン展に出品したが、貧困と絶望の中、三七歳で没する。そのような島村も一九四四年、「中支軍囑託の軍属となり、中国へと渡ったのである。余暇には「本領の画技を上長の了解を得て研修しつつある」と父忠次郎は記す」（小寺瑛広「総論 島村洋二郎」、島村直子・小寺瑛広編『カドミウム・イエローとプルツシャン・ブルー』二〇二二年、未知谷、三三頁）。出兵と云えども、中国という「本領の画技」を研修する発想と、高橋、鬘光はどのように関連しているのだろうか。このような研究も、行っていかなければならない。

四、歴史観

宮川ほど、「いま、ここ」を実現した者はいないのかも知れない。「あるひとりの人を研究するときに、自分との関係が一番大切なわけです。その人が生きてきた社会のなかで、どういう役割をしてきたか、どういう仕事をしてきたかということの研究するのは重要でしょう。しかしそれとともに、その人が会ったこともない人であり、百年も前の人であり、あるいは千年も前の人であるかもしれないけれども、そういう人と自分との関係というものを意識することが、非常に大切だと思うのです」（会津八一とわたし）一九八四年、和光大学人文学部芸術学科『ヨーロッパとアジアの交錯』一九九六年、四二二頁）。千年前の人物を今、生きている自己に引き寄せ、関係性を大切にしろとい

う。つまり、今、ここが宮川にとって重要なのである。

中国で発掘された美術品が、中国の文献に書かれた通りの場所にあったという宮川による記述は、引用するまでもなく、文献を読んでみるとよく見かける。発掘された今こそ、過去を引き寄せた証である。と宮川は伝えたかったのではないだろうか。また、明治期に古美術ブームが生まれたことと、当時の芸術界の動向を結び付けて論じている宮川以外の見解に、私はなかなか辿り着くことがない。そういった明治期と宮川が生きた現代を結び付ける作業に対して我々は、その宮川が生きた時代と現在を連携して考えなければならぬのではないだろうか。このように、宮川の歴史観とは、単なる時空列の羅列ではない。

宮川とH・アーレント（一九〇六一―一九七五）は、非常に似ていると、私は思っている。宮川が美術研究者の枠に留まることがないのと同様、アーレントも単なる哲学者や政治研究者では収まらない。アーレントもまた独自の歴史観を携えている。

「二七七年にベルリンで生まれたにもかかわらず、自分に起こったことがすでに一七〇〇年前のイェルサレムに始まっていたとしたら、自分の背負った歴史を知るのには難しいことかもしれない。もし歴史を知らず、しかも自分のそばにあるものだけを承認し、厭なことを嘘で覆い隠し、善いことを忘れるるくでなしのような人間でないなら、歴史は報復し、それが優越した形で個人の運命になるだろう」（『ラーヘル・ファルンハーゲン』一九五九年、寺島俊穂訳、未来社、一九八五年、一四頁）。

幼少期の体験―宮川は関東大震災時の朝鮮人虐殺、アーレントはユ

ダヤ人として―、徹底的勉強、政治運動、検挙、何をしている人かよくわからない、つまり、自己を確信している。超然としている。書評の原稿料が主だった、勉強家、努力家。遅くに大学で教えるようになる。官僚主義という人間の腐敗を、徹底的に暴いたところに共通点がある。宮川とアーレントという種類の人間と研究が、見えなくなっている、見過ごされている、理解がされていないという現状に対して、再考する必要を私は感じる。

五、これからの美術史

美術史とは、純粋に美術を研究するのではなく、当時の社会の状況や目標、理想といったものも含まなければならぬのではないだろうか。

旧字を新字に改めた。「労働組合は解放された条件のもとで急速に設立された。設立された土台にはブルジョアの旧勢力的慣習、機構、教養が根をはっている。（中略）資本家は官僚とともに労働組合をブルジョア化する」（『北辺の組織労働者』『中央公論』、一九四七年、四〇頁）。労働組合が解体され、官僚によってブルジョア化されてしまう。「美術史が科学となるための条件は、ブルジョア社会が前提であった。（中略）わがくにでは最近に至るまで美術の階級をつらぬく史的（マ）は握はなされなかつた。官僚な美術史家、考証学者、俗流（マ）仰学主義批評に埋られていた。（中略）若い日本美術史学も前進をはじめた。（中略）美術史とは自ら新美術を生み出すものの史的基礎である。実践的な前向きな美術史が研究され（マ）よ述されてゆく過程は人民の美術

が生み出されてゆく過程でもある」(「美術の史的基礎」『北海道大学新聞』、一九四八年二月一日)。美術史家とは従来官僚的であったが、新しい美術史は人民の美術が生み出されていく過程である。両方に共に、同じ主張である。

宮川は官僚主義に対して民主主義として、社会を唱えたかったのではないだろうか。宮川の岡倉研究も、この一点に尽きたと私は考えている。「天心は、朝鮮や台湾の日本の植民地経営にたいして、胸にいくらかの疼みも感じなかつたのである。後年の漱石にすら、それを疼みとする感性を欠除したことを思えば、明治ナショナリズムというものは、恐ろしい性格をもっていたといわなければなるまい」(「アジアは一なり」ということ)、吉川弘文館『人物叢書四〇』付録、吉川弘文館、一九六〇年一月)。ナショナリズムは、漱石も呑み込んでしまった。

我々は分類するだけで満足する近代の発想から、抜け出ていない。歴史もまた、分断の手法となつてしまつてゐる。民主主義もまた、社会主義と資本主義で分断され、根本的な民主主義という点が見逃されてゐる。東洋と西洋の相違もまた、熟考することが為されていない。我々は「これが正しい美術史」と思い込んではいないだろうか。「われわれは、自分とは異なつた文化や過去の歴史を考察するとき、自分自身の属する文化のもつてゐる価値観や枠組をそのまま無反省的に持ち込んで、それを前提に議論を出発させてしまいがちである。それが高じると、本来一つの文化や時代の枠を出ないローカルな存在であつたはずのものを、そのまま「普遍性」のレヴェルに横滑りさせて、あたかも文化や時代の制約をこえて、誰の目にも同じようにみえ

る「客観的事実」であつたり、あらゆる文化に共通の「原理」であつたりするかのように論じてしまふ、論の「すりかえ」が発生することになる」(前出)。

宮川寅雄の存在と方法を検討することによって、我々は忘れていたものを取り戻せるのではないか。まだ、間に合う。

著作目録 (宮川寅雄著作目録) 和光大学人文学部芸術学科、一九八五年三月、三七〇頁

専著 (単行本)

岡倉天心 (日本美術史叢書8) 東京大学出版会 一九五六年二月
萬鉄五郎・小出楯重・古賀春江 (『日本近代絵画全集』第九卷) 講談社 一九六三年二月

東ヨーロッパとの対話 校倉書房 一九六三年二月

三岸好太郎・長谷川利行・鬚光 (『日本近代絵画全集』第一卷) 講

談社 一九六四年二月

近代美術とその思想 理論社 一九六六年七月

MODERN JAPANESE PAINTING Kodansha International Ltd. Tokyo

一九六七年【ママ】

会津八一 (紀伊國屋A-49) 紀伊國屋書店 一九六九年二月

近代美術の軌跡 中央公論社 一九七二年三月

會津八一の文学 講談社 一九七二年六月

鬚光 (『日本の名画』44) 講談社 一九七三年三月

中国美術紀行 講談社 一九七五年七月

- 中国美術の流れ（『図説中国の歴史』） 講談社 一九七七年二月
- 會津八一の世界 文一総合出版 一九七八年九月
- 秋艸堂印譜 二玄社 一九七九年十二月
- 會津八一 紀伊國屋書店 一九八〇年七月
- 秋艸道人隨聞（中公文庫） 中央公論社 一九八二年九月
- 歳月の碑 中央公論美術出版 一九八四年四月
- 【美術史散策 恒文社 一九八七年一月】
- 『會津八一全集』関係
- 『會津八一全集』（第一回） 中央公論社
- 第六卷 隨筆編輯後記 一九五八年十一月
- 第七卷 日記・雜纂編輯後記 一九五九年三月
- 第八卷 附録月報第八號「會津先生と社會主義」 一九五九年五月
- 第九卷 書簡下・補遺 編輯後記（安藤更生 松下英麿 宮川寅雄 吉野秀雄） 一九五九年六月
- 『會津八一全集』（第二回） 中央公論社
- 第一卷 附録月報4 會津八一案内4 「乃木希典の殉死事件について」 一九六九年一月
- 第三卷 附録月報6 會津八一案内5 「ある談話資料」 一九六九年三月
- 第四卷 附録月報1 會津八一案内1 「文献・研究資料について」 一九六八年十月
- 第五卷 短歌下編輯後記追記 一九六八年十一月
- 同五卷 附録月報2 會津八一案内2 「伝記の資料について」 一九六八年十一月
- 第六卷 隨筆編輯後記（第一回全集第六卷に同じ） 一九六八年十二月
- 同六卷 附録月報3 會津八一案内3 「三たび資料について」 一九六八年十二月
- 第七卷 日記・雜纂編輯後記（第一回全集第七卷に同じ） 一九六九年四月
- 同七卷 附録月報7 會津八一案内6 「長野県朝日村における學術講演について」 一九六九年四月
- 第八卷 附録月報8 會津八一案内7 「ノート『渡辺華山について』」 一九六九年五月
- 第九卷 附録月報9 會津八一案内8 「晩年の論文執筆計画について」 一九六九年六月
- 第十卷 補遺編輯後記（宮川寅雄 長島健） 一九六九年八月
- 同十卷 附録月報10 會津八一案内9 「茂吉・子規・紅葉に関するノート」 一九六九年八月
- 『會津八一全集』（第三回） 中央公論社
- 第七卷 隨筆編集後記 一九八二年四月
- 第八卷 書簡上編集後記（宮川寅雄 長島健） 一九八二年十一月
- 第十卷 書簡下編集後記（宮川寅雄 長島健） 一九八三年三月
- 第十一卷 日記・雜纂編集後記 一九八二年十月
- 第十二卷 雜纂・索引編集後記（宮川寅雄 長島健） 一九八四年五月

共著・編著・監修(単行本)

『書』第4章 書家という存在(傳統藝術の會編 共著) (『傳統藝術講

座』V) 河出書房 一九五五年三月

『ОЧЕРКИ ПО ИСТОРИИ РАБОЧЕГО ДВИЖЕНИЯ В ЯПОНИИ』

ИНОСТРАННОЙ ЛИТЕРАТУРЫ Москва (共著)(物語・日本の労

働運動 ロシヤ語訳) 一九五五年

『戦後の十年史』戦後の平和問題(歴史研究会、日本史研究会編 共

著) (『日本歴史講座』第7巻) 東京大学出版会 一九五七年八

月

『會津八一の書』(共編著) 中央公論社 一九五七年九月

『日本の芸術——伝統と現代——』(南博編 共著) 東洋經濟新報社

一九五八年六月

『日本人の思想の歩み』(家永三郎編 共著) 理論社 一九五九年八

月

『片山潜著作集』第2巻(編・解題) 片山潜生誕百年記念会 一九六〇

年二月

『明治時代の美術・明治美術の素描』(共著) (『図説・日本歴史』第7

巻) 中央公論社 一九六一年四月

『世界婦人』(労働運動史研究会編 編・解題) (『明治社会主義史料集』

別冊I) 明治文献資料刊行会 一九六一年六月

『現代I』国民的文化の形成(共著) (『岩波講座・日本歴史』18) 岩

波書店 一九六二年一月

『世界と日本』(共著) (『日本の歴史』第12巻) 国際文化情報社

一九六三年四月

『鑑真和上 記念論文集』鑑真和上在日の時代(共著) 春秋社

一九六三年一月

『絵本彩色通』葛飾北斎著(編著) 岩崎美術社 一九六四年一月

『自注鹿鳴集』會津八一著(編・解題) 中央公論美術出版 一九六五

年二月

『鐵火石火』白柳秀湖著(明治文献資料刊行会編 編・解題) (『明治

文献資料叢書』社会主義篇IV) 明治文献 一九六五年四月

『日本美術史』(共著) 造形社 一九六五年四月【吉沢忠・一九五九

年】

『100 YEARS』(共編著) Kodansha International Ltd. Tokyo 一九六五

年六月

『秋艸道人墨蹟』(共編著) 二玄社 一九六五年一月

『ИТОРИЯ ЯПОНСКОГО ИСКУССТВА』(日本の美術) ЕДИТЕЛЬСТВО

ПРОПЕСС МОСКВА 一九六五年

『明治のいない手』下(共著) (『人物・日本の歴史』) 読売新聞社

一九六六年二月

『日本近代の名著』(エコノミスト編集部編 共著) 毎日新聞社

一九六六年七月

『村莊雜事』會津八一著・覆刻版(編・解説) 東峰書房 一九六七年

六月

『近世崎人伝』(編・共著) (『日本史の人物像』第8巻) 筑摩書房

一九六七年一月

『近代日本の争点』下・アジアは一つか?……アジア主義の理念(共

著 毎日新聞社 一九六七年一月

『追想・亀井勝一郎』(共著) 亀井書房 一九六七年二月

『日本美術史』(共著) 造形社 一九六七年二月

『岡倉天心集』(編著) 『明治文学全集』38) 筑摩書房 一九六八年

二月

『和魂洋才』日本主義とコスモポリタニズム(共著) 『日本文学の歴史』

第10巻) 角川書店 一九六八年二月

『渾齋隨筆』會津八一著(編・解説) 中央公論美術出版 一九六八年

六月

『渾齋・秋艸道人』語られざる言葉について(編・共著) 求龍堂

一九六八年十一月

『明治以後・書』(共著) 『日本美術全史』6) 美術出版社 一九六九年

年六月

『追想・北川桃雄』(共著) 三彩社 一九六九年一月

『筭篋引』秋艸道人書(編・解説) 中央公論美術出版 一九六九年

一二月

『観音堂』會津八一著(編・解説) 中央公論美術出版 一九七〇年

一二月

『奈良百佛』(共著) 鹿島研究所出版会 一九七一年二月

『山光集』會津八一著(編・解説) 中央公論美術出版 一九七一年三月

月

『芸苑雜稿・他』岩村透著(編・解説) (東洋文庫182) 平凡社

一九七一年三月

『寒燈集』會津八一著(編・解説) 中央公論美術出版 一九七一年四月

月

『茶の本』岡倉天心著(訳・解説) (講談社文庫) 講談社 一九七一年七月

年七月

『山鳩』會津八一著(編・解説) 中央公論美術出版 一九七一年八月

『會津八一繪のある葉書』(編・解説) 求龍堂 一九七一年二月

文学の旅・第二卷『奈良』(共著) 千趣会 一九七二年二月

『この生を愛す、わが人生観30』會津八一著(編・解説) 大和書房

一九七二年五月

『幸徳秋水全集』第八卷(編・解説) 明治文献 一九七二年六月

『殘燈集・稿本』會津八一著(編・解説) 中央公論美術出版 一九七二年九月

年九月

『田空佛』田空の彫刻について(共著) 鹿島研究所出版会 一九七二年九月

年九月

『田空』(共著) 造形社 一九七三年六月

『會津八一・頂戴圖録』(編・解説) 中央公論美術出版 一九七三年

一二月

『村莊雜事』會津八一著(編・解説) 中央公論美術出版 一九七四年

五月

『日本の美と心』第六〜八卷(編・共著) 学習研究社 一九七四年七月

一〇月

『奈良の古寺——天平のほとけたち——』鑑真と唐招提寺(共著) 『日

本古代史の旅』7) 小学館 一九七四年九月

『杜子美・飲中八仙歌』會津八一著(編・解説) 中央公論美術出版

一九七五年四月

- 美しい日本の旅・第一〇巻『奈良』（共著） 学習研究社 一九七五年四月
- カラー・会津八一『鹿鳴集・奈良』（編・共著） 淡交社 一九七五年六月
- 『新中国考古の旅』（編著） 秋田書店 一九七五年七月
- 『Japanische Kunst』 I、II（日本の美術）（共著） Koehler & Amelang Leipzig 一九七五年
- 『印象』会津八一著（編・解題） 中央公論美術出版 一九七五年十一月
- 『四代目藤波與兵衛』（共著） 同上編集委員会 一九七六年五月
- 小川芋銭『草汁漫画』（編・解題） 造形社 一九七六年五月
- 朝日村講演時代の会津八一（講演録） 朝日村会津八一顕彰会 一九七六年一月
- 近代日本美術史1『幕末・明治 司馬江漢から青木繁まで』岡倉天心の大雅論（共著）（有斐閣選書） 有斐閣 一九七七年一月
- 会津八一自筆本『菊のつくり方』（編・解題） 求龍堂 一九七七年二月
- 『碑拓の世界』（解説）（摩崖碑拓本展図録） 東京画廊 一九七七年五月
- 『銀座細見』安藤更生著（解説）（中公文庫） 中央公論社 一九七七年九月
- 『中国の美術と考古』新発掘報告（編著） 六興出版 一九七七年九月
- 『田坂輝敬回想録』（共著） 日本製鐵株式会社 一九七八年一月
- 『雲崗の石窟』（編著） 新潮社 一九七八年二月
- 『微笑の円空仏を訪ねる旅』（共著）（Sun Mook No.1） 太陽社 一九七八年三月
- 『追想・平田良衛』（共著） 一同舎 一九七八年五月
- 『和歌森太郎』（共著） 弘文堂 一九七八年六月
- 『中国文明の原像』上・下（編著）（放送ライブラリー） 日本放送出版協会 一九七八年八月
- 『渾齋隨筆』会津八一著（編・解説）（中公文庫） 中央公論社 一九七八年一月
- 『会津八一墨蹟集』（編） 新潟日報事業社 一九七八年一月
- 『春日野』会津八一書歌・杉本健吉絵・覆刻版（編・解説） 求龍堂 一九七八年一月
- 『会津八一の法帖』（編著） 中央公論美術出版 一九七九年二月
- 『安曇野と道祖神』私の安曇野（共著） 文二総合出版 一九七九年六月
- 『東大寺大佛讚歌』会津八一書歌・杉本健吉絵・覆刻版（編・解説） 求龍堂 一九七九年七月
- 『画論集』井上長三郎（編） 画論集刊行会 一九七九年一〇月
- 『續渾齋隨筆』会津八一著（編・解説）（中公文庫） 中央公論社 一九八〇年一月
- 『画集』『鬢光』（編・共・解説） 講談社 一九八〇年四月
- 『追憶・大塚有章』『未完の旅路』（共著） 同上刊行委員会 一九八〇年六月
- 『壺法師海雲』追憶・海雲さんと私（共著） 上司海雲追憶記刊行会 一九八〇年一〇月

- 『Japan museum』(日本美術) (共著) CORVINA KIADO 一九八〇年
一〇月
- 『秋艸堂学規』(原稿複製四葉・解題) 東峰書房 一九八一年八月
【一九七四年】
- 『南京餘唱』會津八一著・覆刻版(編・解題) 東峰書房 一九八一年
八月
- 『長安の春秋』王羲之と顧愷之(編・解題) (『人物・中国の歴史』6)
集英社 一九八一年八月
- 『小山富士夫の世界』古山子の風貌(共著) 里文 一九八一年一〇月
- 丹呉本『観音堂』會津八一書(編・解題) 教育書籍 一九八一年一〇
月
- 『南京新唱』會津八一著(編・解題) 日本近代文学館 一九八一年
一二月
- 『會津八一の書翰』(一)(監修) 教育書籍 一九八二年二月
- エクラン世界の美術・第一卷『中国』(編・共著) 主婦の友社 一九八二
年三月
- 中国の美術・第三卷『絵画』(編著) 淡交社 一九八二年六月
- 『歌をよむには』(會津八一の自筆による四篇の文章・編・解題) 中
央公論美術出版 一九八二年九月
- 『国際交流の演出者』岡倉天心、日本の心々を世界に伝えた思想家(共
著) (『日本のリーダー』⑤) TBSブリタニカ 一九八三年九
月
- 『現代の肖像・百歌人』小方悟撮影(歌八首・共著) 四季出版 一九八三
年一二月
- 新聞・雑誌・単行本
一九四七年
北邊の組織労働者 中央公論社「中央公論」一九四七年五月
日本美術史学について 社会評論社「自由會議」一九四七年九月
- 一九四八年
詩抄 新日本文学会北海道支部「北方文学」一九四八年五月
古美術と人民 日本民主主義文化連盟「文化革命」一九四八年一〇
月
美術の史的基礎——実践的な前向き美術史を「北海道大学新聞」
一九四八年二月一八日
- 一九四九年
道展をみて「北海新報」八七号 一九四九年八月
炭鑛繪畫展評「北海新報」一二二号 一九四九年一月
- 一九五〇年
ギリシヤの石 松岸詩話会「灰皿」No.3 一九五〇年二月
納内村句記 松岸詩話会「灰皿」No.10 一九五〇年二月
人民の画家・クールベ 北海道文化会議「文化新聞」一九五〇年七
月十五日
- 一九五一年
俳句一〇句(高橋堂主人新婚記念律呂社・歌仙・春宵の巻) 律呂社

一九五一年四月

一九五二年

大陸外交の殊勲者達（共同執筆） 東洋経済新報社「東洋経済新報」

別冊八号 一九五二年五月

小桃居消息 松岸詩話会「魚鱗」第八号 一九五二年六月

『日本の美術』田中一松編（書評） 日本美術会機関誌「美術運動」第

二八号 一九五二年七月

日比谷焼打事件から足尾暴動へ（岩切大三郎名で執筆） 東洋経済新

報社「東洋経済新報」別冊九号 一九五二年七月

『天武天皇』川崎康之著（書評） 河出書房「歴史評論」 一九五二年

九月

一九五三年

『解説・世界史資料集』小西四郎・三上次男・尾崎輝彦著（書評） 「日

本読書新聞」 一九五三年一月一日

小桃居消息・その二 松岸詩話会「魚鱗」第九号 一九五三年一月

『帝国主義』幸徳秋水著（書評） 「図書新聞」 一九五三年二月一日

組合運動 中央公論社「中央公論」 一九五三年六月

『日本の赤い旗』P・ランガー、R・スウェアリンゲン著（書評）

「日本読書新聞」 一九五三年六月一日

一九五四年

石材運搬 文化史懇談会「文化史懇談会ニュース」No.21 一九五四年

一月

歌十首 松岸詩話会「岸壁」 一九五四年四月

『青村眞明遺稿集』（刊行のことば・解剖の日のこと） 青村眞明遺稿

集刊行会 一九五四年四月

地方史研究と写真の年史 地方史研究協議会「地方史研究」12

一九五四年四月

秋音五句 松岸詩話会「寒鴉」 一九五四年四月

『今日の書道』安藤更生、堀江知彦編（書評） 「図書新聞」 一九五四

年五月八日

竹山道雄氏著『古都遍歴』について 文化史懇談会「文化史懇談会

ニュース」No.26 一九五四年六月

『春日野』秋艸道人書・杉本健吉画（書評） 「図書新聞」 一九五四年

九月二五日

『自註鹿鳴集』会津八一著（書評） 「日本読書新聞」 一九五四年一二

月一日

一九五五年

伊勢神宮についての随想 新建築社「新建築」 一九五五年一月

岡倉天心余談 「文化史懇談会ニュース」No.28 一九五五年四月

考古学への夢 日本考古学講座「月報」2 一九五五年四月

岡倉天心の問題点（その二） 日本近代史研究会「會報」No.3 一九五五

年六月

『明治社会運動思想』上・下岸本英太郎編（書評） 「図書新聞」

一九五五年六月二五日

ある女の生きた道 中島湘烟(その二) 「いけばな草月」 一九五五年七月

革命運動史の一齣 『社会主義講座』 「月報」 7 一九五五年一〇月

一九五六年

『東洋美術史要説』 上巻 町田甲一、深井晉司著 (書評) 「図書新聞」

一九五六年一月二二日

雪舟年祭のための委員会の発足 「文化史懇談会ニュース」 【ママ】

一九五六年三月

虎溪三笑図 拙宗等楊筆 「文化史懇談会ニュース」 No.34 一九五六年

七月

僧寂巖 秩父商会 一九五六年一〇月

日本古代彫刻の展開 「文化史懇談会ニュース」 【ママ】 一九五六年

一二月

秋艸道人終焉記 「図書新聞」 一九五六年一二月一日

『日本革命運動の群像』 志賀義雄著 (書評) 日本共産党「アカハタ」

一九五六年一二月五日

一九五七年

『眼で見る古代の世界』 三上次男、秀村欣二、関野雄編 (書評) 「日

本読書新聞」 一九五七年一月二二日

『故郷』 小杉放庵著 (書評) 「日本読書新聞」 一九五七年四月一日

『遠離一切顛倒夢想』 高村光太郎書 秩父商会 一九五七年五月

平福百穂 「評」 一九五七年七月

美術における民衆 美術出版社「みづゑ」 No.624 一九五七年七月

ピサロ・花園 秩父商会刊 一九五七年一〇月

歴史学と美術史学の間 宮川寅雄、吉沢忠(対談) 河出書房新社『日

本歴史大辞典』付録第七号 一九五七年一二月

美術』との愚行 「文化史懇談会ニュース」 No.36 一九五七年一二月

一九五八年

近代史の問題点について・上(座談会) 吉川弘文館「日本の歴史」

一九五八年一月

『遠くでかすかに鐘が鳴る』 河上肇著、『石川三四郎書簡集』 唐沢隆三

編(書評) 「図書新聞」 一九五八年一月二二日

歴史家は紀元節をどう考える 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九五八

年二月二日

今村紫紅 「評」 一九五八年二月

『虚無坐禅随筆』 高橋新吉著 (書評) 「日本読書新聞」 一九五八年二

月七日

『岡倉天心』 についての書評に答える 民主主義科学者協会歴史部会

「歴史評論」 一九五八年三月

『大塚甲山遺文集』 (書評) 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九五八年

三月一六日

『横山大観』 斎藤隆三著 (書評) 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九五八

年五月四日

『法隆寺の彫刻』 長谷川伝次郎・写真、久野健・文 (書評) 毎日新聞

社「サンデー毎日」 一九五八年五月二二日

- 『種子島銃』洞富雄著 毎日新聞社「サンデー毎日」一九五八年五月
 一一日
- 『日本金工談叢』香取秀真著（書評）「図書新聞」一九五八年五月
 一七日
- 『日本帝国主義史』第一卷 小山弘健、浅田光輝著（書評）毎日新聞
 社「サンデー毎日」一九五八年五月二五日
- 『フェノロサ——日本美術に献げた魂の記録——』久野真著（書評）
 「日本読書新聞」一九五八年六月三日
- 『ベルシャの遺蹟』（書評）毎日新聞社「サンデー毎日」一九五八年
 六月八日
- 人物伝の流行——歴史家は人間を描きはじめてか—— 毎日新聞社
 「サンデー毎日」一九五八年六月一五日
- 『安部磯雄伝』片山潜著（書評）「図書新聞」一九五八年七月五日
- 『源氏物語絵巻——『日本絵巻物全集』——第一巻 毎日新聞社「サ
 ンデー毎日」一九五八年七月二三日
- 岸田劉生 「評」一九五八年八月
- 長谷川利行論 美術出版社「美術手帖」一九五八年八月
- 『日本絵画史の展望』田中一松著（書評）毎日新聞社「サンデー毎日」
 一九五八年八月一〇日
- 『吉野作造』田中惣五郎著（書評）毎日新聞社「サンデー毎日」
 一九五八年八月一〇日
- 『麻生久伝』河上丈太郎監修（書評）毎日新聞社「サンデー毎日」
 一九五八年九月七日
- 『学習指導要領』と歴史教育 毎日新聞社「サンデー毎日」一九五八
 年九月七日
- 古美術の案内者たち 美術出版社「美術手帖」臨時増刊No.147 一九五八
 年九月
- 『横山大観』吉沢忠著（書評）毎日新聞社「サンデー毎日」一九五八
 年九月二三日
- 書道と絵画 淡交新社「淡交」増刊 一九五八年九月
- 『朝鮮』金達寿著（書評）毎日新聞社「サンデー毎日」一九五八年
 一〇月二六日
- 『戦後日本小史』上巻 矢内原忠雄編（書評）毎日新聞社「サンデー
 毎日」一九五八年一〇月二六日
- 新聞・雑誌記者の記録から（書評）毎日新聞社「サンデー毎日」
 一九五八年一〇月二六日
- 『雪舟』蓮見重康著（書評）毎日新聞社「サンデー毎日」一九五八
 年一一月一六日
- 中央公論・インテリの風信器「警戒すべき自堕落さ」毎日新聞社「サ
 ンデー毎日」一九五八年一一月七日
- 『灰色のユーモア』和田洋一著（書評）毎日新聞社「サンデー毎日」
 一九五八年一一月二八日
- 一九五九年
- 寝言 伝統芸術の会「伝統芸術」No.60 一九五九年一月
- 近・現代史の扱い方 河出書房新社「歴史地理教育」39 一九五九年
 一月
- 『中江兆民』坊和雄著（書評）毎日新聞社「サンデー毎日」一九五九

年一月二五日

Reflections on the Ise Shrines the Japan architect [Shinkenchiku-sha]

新建築社 一九五九年一月

片山潜と戸張孤雁 至誠堂「歴史評論」 一九五九年二月

『二宮尊徳』奈良本辰也著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九五九年二月一五日

『日本のあけぼの』三笠宮崇仁編（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九五九年二月二二日

三岸好太郎「評」 一九五九年三月

『赤と黒』立野信之著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九五九

年三月一日

『歴史ものブーム』その底にあるもの 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九五九年三月一五日

『米騒動の研究』第一巻 井上清、渡辺徹編（書評）「新読書」 一九五九

年四月

弔辞 「文芸日本」第七卷第四号 一九五九年四月

断片的に追悼、大鹿卓 「文芸日本」第七卷第四号 一九五九年四月

小川芋銭と初期社会主義 至誠堂「歴史評論」一〇四号 一九五九年

四月

會津先生と社会主義 中央公論社『會津八一全集』第八卷（月報第八

号） 一九五九年五月

『北一輝著作集』第一卷——国体論及び純正社会主義——（書評） 每

日新聞社「サンデー毎日」 一九五九年五月三日

再燃する？天皇制論議——ご結婚ブームの中の二つの問題—— 毎日

新聞社「サンデー毎日」 一九五九年五月三日

『エイブ・リンカーン』吉野源三郎著（書評） 毎日新聞社「サンデー

毎日」 一九五九年五月一〇日

妄言多謝——大河内教授の報告をきいて—— 大月書店「労働運動史

研究」15 一九五九年五月

『福田英子』村田静子著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九五九

年五月二四日

『抗日戦回想録』郭沫若著・岡崎俊夫訳（書評） 毎日新聞社「サン

デー毎日」 一九五九年五月三二日

徳岡神泉 秩父商会 一九五九年六月

奈良美術への誘い「評」 一九五九年六月

戦後は終わったのか——食いちがう保守派と進歩派—— 毎日新聞社

「サンデー毎日」 一九五九年六月二二日

『戦後思想史』山田宗睦著（書評）「新読書」 一九五九年七月

『歴史の危機』の突破口 毎日新聞社「エコノミスト」 一九五九年七

月一四日

『生きているユダ』尾崎秀樹著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九五九年七月一九日

『樹下美人』座右宝刊行会編（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九五九年七月一九日

美術ジャーナリズム批判——大衆に浸透するブームの実体——「サン

デー毎日」 一九五九年七月一九日

季節観 歴史学研究会「会報」No.1 一九五九年八月

『歴史と現代』家永三郎著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

- 一九五九年八月一六日
 危険な世代論の流行 毎日新聞社「エコノミスト」一九五九年八月二五日
- 小説における現代史 「日本歴史大辞典」(月報第一七号) 一九五九年八月
- 会津八一 秩父商会 一九五九年九月
- 抽象美術雑感 造形芸術研究会「造形美術」第二〇号 一九五九年九月
- 『戦後思想史』再評——山田宗睦の反論に答える 「新読書」 一九五九年九月
- 『大逆事件』尾崎士郎著(書評) 毎日新聞社「サンデー毎日」一九五九年九月一三日
- 『日本を創る表情』藤島宇内、丸山邦男、村上兵衛著(書評) 毎日新聞社「サンデー毎日」一九五九年九月二〇日
- 日・ソの明治維新史論争 毎日新聞社「エコノミスト」一九五九年九月二〇日【二二日】
- 日本美術院と岡倉天心 愛知県文化会館美術館ニュース「窓口」第五〇号 一九五九年九月
- 天皇制論議と歴史教育 歴史地理教育編集委員会「歴史地理教育」46 一九五九年九月
- 小出楯重 「評」 一九五九年一〇月
- 60年代の「進歩的思想」マルキシズムとプラグマチズム(座談会) 毎日新聞社「エコノミスト」一九五九年一〇月一〇日
- 日本美術史というもの 「造形芸術」第22号 一九五九年十一月
- 「大衆の中の文化」を探る——そこに歴史の深淵が横たわる——毎日新聞社「サンデー毎日」一九五九年十一月五日
- 美術批評家としての片山潜 大月書店「労働運動史研究」18 一九五九年十一月
- 天心の手紙 「うりえ」 一九五九年十二月
- 『北一輝』田中惣五郎著(書評) 「新読書」 一九五九年十二月
- 『日本の彫刻』久野健著(書評) 毎日新聞社「サンデー毎日」一九五九年十二月六日
- 新しい人間叙述への意欲——特集「伝記」の世界をめぐる——毎日新聞社「サンデー毎日」一九五九年十二月六日
- 『明治哲学史研究』船山信一著(書評) 「図書新聞」 一九五九年十二月二日
- 一九六〇年
- 社会主義運動研究の問題点 宮川寅雄、絲屋壽雄、山辺健太郎(座談会) 「図書新聞」 一九六〇年一月一日
- 『日本残酷物語』第一部 宮本常一他監修、『盜賊論』神山圭介、『私と戦争』第一卷(書評) 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六〇年一月一七日
- 「アジアは一なり」ということ 吉川弘文館 人物叢書「岡倉天心」付録第四〇号 一九六〇年一月
- 回顧と展望 日曜クラブ事務局「日曜クラブ」No.50 一九六〇年二月
- 『岡倉天心』斎藤隆三著(書評) 「週刊読書人」 一九六〇年二月二九日

善政望まれる歴史学会 毎日新聞社「エコノミスト」一九六〇年三月三日

大衆需要と新企画——特集「歴史もの」をめぐって 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六〇年三月二〇日

千櫨の歌 秩父商会 一九六〇年四月

『池大雅作品集』 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六〇年四月三日

思想の科学研究会編『転向』中（書評）「新読書」一九六〇年四月

漱石の美術論 銅鑼の会「銅鑼」第三号 一九六〇年五月

『近代の超克』をめぐって 「図書新聞」一九六〇年五月七日

『芥川龍之介遺墨』（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六〇年

五月十五日

『中国人 日本留学史』さねとう けいしゅう著（書評） 毎日新聞社

「サンデー毎日」一九六〇年五月十五日

特集近代史の新刊書——「現代」への指針を求めて—— 毎日新聞社

「サンデー毎日」一九六〇年六月二六日

『寒村自伝』荒畑寒村著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六〇

年七月三日

『石の声』について 藍短歌会「藍」第三号 一九六〇年七月

『敦煌学五十年』神田喜一郎著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六〇年七月二二日

『九州人』金関丈夫、楢垣元吉監修（書評） 毎日新聞社「サンデー毎

日」一九六〇年八月【一四日】

円空の彫刻について 造形芸術研究会「造形芸術」第二九号

一九六〇年九月

ひのき舞台に出た底辺もの（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六〇年九月二十五日

一臨蓉頂（豪潮の書） 秩父商会 一九六〇年一〇月

一九六一年

ワイマールの旅で 三和新聞社「三和新聞」第一〇七号 一九六一年

一〇月【ママ】

『東方見聞録』マルコ・ポーロ著・青木一夫訳（書評） 毎日新聞社

「サンデー毎日」一九六一年三月一日【一九日】

『雪舟等楊論』蓮見重康著（書評） 「図書新聞」一九六一年三月一八

日

ヨーロッパ世界の印象 歴史学研究月報 一九六一年三月

会誌のこと——評議員のひとりとして—— 大月書店「労働運動史研

究」26 一九六一年三月

『版画』——近代日本の自画像 小野忠重著（書評）「北海道新聞」

一九六一年三月二九日

ルマニア日記（一） 春秋社「歴史評論」一九六一年四月

『版画』——近代日本の自画像 小野忠重著（書評）「週刊読書人」

一九六一年四月三日

ルマニア日記（二） 春秋社「歴史評論」一九六一年五月

東ベルリンの顔——竹山道雄氏の紀行について——「アカハタ」

一九六一年五月四日

美術を中心としてヨーロッパの東と西（講演要旨） 女子美術大学

「学生新聞」第二九号 一九六一年五月

- 『贗作者・商人・専門家』ゼップ・シユラー著・関楠生訳（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六一年五月二八日
- 鎌倉初期木彫 秩父商会 一九六一年六月
- 『茶の本』という本 「図書」第一四一号 一九六一年六月
- アクロポリスの丘から 文化史懇談会「文化史懇談会ニュース」No.46 一九六一年六月
- フンボルト大学の印象 日独文化の会「日独文化通信」No.32 一九六一年六月
- 『小林古径画集』（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六一年六月二五日
- 現代史の気象 中央公論社『図説日本の歴史』付録8 一九六一年七月
- 『木下尚江』柳田泉著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六一年七月九日
- チェコスロバキアの印象 春秋社「歴史評論」131 一九六一年七月
- 『戦後日本精神史』——討論形式の戦後思想史——（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六一年七月一七日
- 東ヨーロッパの画家たち 雪華社「文学散歩」一九六一年八月
- 東ヨーロッパの彫刻——チポール・バルトフェイのこと—— 造形芸術研究会「造形芸術」第三八号 一九六一年八月
- 『万葉集の詩と真実』板橋倫行著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六一年八月二〇日
- 『日本のミイラ』安藤更生著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六一年九月一〇日
- 見てきたベルリンの東と西 国際緊張の接点の表情「新週刊」一九六一年九月
- 野呂栄太郎論について 日本評論新社「労働運動史研究」27 一九六一年九月
- 『わが回想』——人間・歲月・生活——イリヤ・エレンブルグ著 木村浩訳（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六一年九月一四日
- 日【なし】
- 政暴法への視角 すでに動く暴力装置、ノ狼_ノ 仲間の陰謀阻止が問題
- 『東京大学新聞』復刊第181号 一九六一年一〇月四日
- 『日本美術の恩人たち』矢代幸雄著（書評）「図書新聞」一九六一年一〇月一四日
- 『明治時代の新聞と雑誌』西田長寿著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六一年一〇月二九日
- 『岸田劉生』東珠樹著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六一年一〇月五日
- 『トリアッティとの対話』について 日本評論新社「労働運動史研究」28 一九六一年一二月
- 『戦後日本史』『日本現代史』（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六一年一二月三日
- 世界の焦点——ドイツ問題をめぐって——上杉重二郎、平野義太郎、宮川寅雄（座談会）「平和日本」No.372 一九六一年一二月【ママ】
- 岡倉天心の遺業——その生誕百年にあたって——「毎日新聞」（夕刊）一九六一年一二月一九日
- 『ペルシャの陶器』三上次男著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六一年二月二四日

松川闘争について 「歴史学研究」 第二五七号【ママ】

一九六二年

感想 文明家協会「通信」 一九六二年

「解説」を終えて 明治文献資料刊行会（「世界婦人」パンフレット）

一九六二年

ルーマニアの旅のこと（舞芸座公演 カラジアーレ「失われた手紙」

プログラム） 一九六二年一月

『山川均自伝』 山川菊栄、向坂逸郎編（書評） 毎日新聞社「サンデー

毎日」 一九六二年一月一四日

『日本の百年』の戦後編にふれて（書評） 「図書新聞」 一九六二年一

月二〇日

『平凡社・世界名画全集』（書評） 「読書の友」 一九六二年二月五日

ループル日本展の図録——ヨーロッパにかたむいた日本人の美術観

—— 「読書の友」 一九六二年二月五日

『講座・日本文化史』第二巻 日本史研究会編（書評） 毎日新聞社

「サンデー毎日」 一九六二年二月二日

ドイツ民主共和国版画展にさいして ドイツ民主共和国版画展図録

一九六二年二月

東独の美術の外側 日本美術会事務局「美術運動」63 一九六二年二

月

『京都』本庄栄治郎著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六二

年二月二五日

『ベルリン東と西』上杉重二郎著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六二年四月一五日

『光太郎回想』高村豊岡著『高村光太郎・山居七年』佐藤隆房著（書評）

毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六二年五月一三日

『大君の都』オールコック著・山口光朔訳（書評） 毎日新聞社「サン

デー毎日」 一九六二年五月一三日

岡倉天心と『茶の本』——茶に託して説いた人生哲学—— 「毎日新聞

（夕刊） 一九六二年五月二日

軍事予算のかけに破壊される文化財 「読書の友」 一九六二年五月

『岩波講座・日本歴史』を中心に（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六二年五月二七日

『シルクロード』——東西文化のかけ橋——長沢和俊著（書評） 毎日

新聞社「サンデー毎日」 一九六二年六月一〇日

『現代日本女性史』井上清著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六二年六月二四日

『ライト・ミルズの世界』H・アプセーカー著・陸井三郎訳 毎日新

聞社「サンデー毎日」 一九六二年七月二九日

『神・墓・学者』O・W・ツェーラム著・村田数之亮訳（書評） 毎日

新聞社「サンデー毎日」 一九六二年八月二六日

表現様式と思想の乖離 美術ジャーナル社「美術ジャーナル」

一九六二年九月一日

書芸文化院版『西域出土の木簡と残紙』 「週刊読書人」 一九六二年

九月三日

『日本終戦史』上・中・下 林茂編（書評） 毎日新聞社「サンデー毎

- 日 一九六二年九月二三日
- 『シルクロード』 林良一著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」
一九六二年九月三〇日
- 光（歌一首） 古今短歌会「古今」 一九六二年一〇月
- 『明治の話題』 柴田宵曲著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」
一九六二年一〇月二日【見つからず】
- 『日本の陶磁』 小山富士夫著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」
一九六二年一〇月七日
- 黄瀛について 「図書新聞」（「紙ナイフ」欄） 一九六二年一〇月一三日
- 『近代日本芸術史』 土岐善麿著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」
一九六二年一〇月一三日
- 因縁 南北社「大衆文学研究」 一九六二年一〇月
- 会津八一の歌について 秩父商会 一九六二年一二月
- ルーマニアの印象 朝倉書店「新世界地理・ニュース」12 一九六二年一二月
- 死別 古今短歌会「古今」 一九六二年一二月
- 『日本の思想家』 I 朝日ジャーナル編（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六二年一二月四日
- 秋艸道人の歌——会津八一遺墨展に寄せる——「新潟日報」 一九六二年一二月四日
- 鑑真についての文献抄 日本中国文化交流協会「日中文化交流」No.66
一九六二年一二月
- 『東征伝』の一側面 日本中国文化交流協会「日中文化交流」No.66
- 一九六二年一二月
- 『近代絵画史』 ハーバート・リード著・大岡信訳（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六二年一二月九日
- 『現代ドイツの東と西』 西義之著（書評） 「読書の友」 一九六二年一二月
- 『内村鑑三とともに』 矢内原忠雄著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六二年一二月二三日
- 一九六三年
- 『文学者と美術批評』 フランソワ・フォスカ著・大島清次訳（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六三年一月六日
- 『東征伝』について 創元社「日本史研究」六四号 一九六三年一月
- 『歴史評論』一五〇号に 春秋社「歴史評論」150 一九六三年二月
- 横山操との対話 東京画廊（展覧会カタログ） 一九六三年二月
- 中国美術の旅——戦後の発掘で美術史にも革命——「毎日新聞」（夕刊） 一九六三年二月五日
- 『宦官』三田村泰助著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六三年二月一七日
- 鑑真和上のことども 春秋社「春秋」 一九六三年三月
- 在日の鑑真 日中仏教交流懇談会（過海大師鑑真） 一九六三年三月
- 中国美術の断面と側面 みず書房「みず」47 一九六三年三月
- 鑑真和上千二百年忌 日中で盛んな記念行事 「日本経済新聞」
一九六三年三月二日
- 『東京の秘境』 甲野勇著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六三年

年三月五日【三日】

『萬鉄五郎・小出楯重・古賀春江』日本近代絵画全集9（書評） 毎日

新聞社「サンデー毎日」一九六三年三月二十四日

「東征伝」所蔵の「救苦観世音像一軀」についての疑問 日本仏教文

化協会事業本部「あそか」No.29 一九六三年四月

中国のデーモン 春秋社「歴史評論」一九六三年四月

現代中国への眼 三一書房（講座・日本文化史）月報No.7 一九六三

年四月

『長谷川利行画集』（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六三年

四月二日

『ある弁護士の生涯』布施柑治著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六三年四月二日

『鑒真和上と美術——軌道にのる記念行事——』造形芸術」第五六号

一九六三年五月

『絵巻』武者小路穰著（書評）「週刊誌書人」一九六三年五月

シラクーザ見聞 古今短歌会「古今」一九六三年六月

『絵巻』武者小路穰著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六三

年六月二日

中国芸術のいとぐち 岩波書店「文学」一九六三年六月

『社会主義』（現代日本思想大系）大河内一男編（書評） 毎日新聞社「サ

ンデー毎日」一九六三年七月七日

『戦争』（岩波講座「現代」）田中慎次郎編（書評） 毎日新聞社「サン

デー毎日」一九六三年七月七日

『老画家の一生』上・津田青楓著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六三年七月二日

『徳川家康』北島正元著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六三年七月二日

古代中国の名器 新潮社「芸術新潮」一九六三年八月

『近代建築の黎明』神代雄一郎著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六三年八月一日

『目前心後』土岐善磨著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六三年九月八日

『荒村遺稿』谷中村滅亡史（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六三年九月二日

『私の現代芸術』岡本太郎著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六三年九月二日

永楽宮壁面雑感 美術出版社「美術手帖」一九六三年十一月

人民のエネルギー 中国旅行者の小さな随想 「図書新聞」一九六三

年十一月二日

中国古文物見聞録 『世界美術大系・中国篇』第一巻月報 一九六三

年十二月

すぐれたジャーナリストの描く中国の歴史と現実「読書の友」

一九六三年十二月

『天寿国繡帳（中宮寺）』 毎日新聞社「サンデー毎日」一九六三年

十二月八日

中国現代史と世界（講演）「明星学園文化部だより」No.6 一九六三

年十二月

『登山の先駆者たち』熊原政男著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六三年二月十五日

陶磁器学者への提案「人民中国」古美術欄を読んで 「日本と中国」

一九六三年十二月

一九六四年

鑑真和上と日本文化（講演要旨） 日本中国友好協会「日本と中国」（杉

並版） 一九六四年一月

『日本史の争点』和歌森太郎著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六四年一月五日

『平城京』亀井勝一郎編（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六四年一月二二日

『良寛歌集』東郷豊治著（書評） 「週刊読書人」 一九六四年一月

早稲田大学と私 早稲田大学校友会「早稲田学報」 一九六四年一月

仙厓のこと 秩父商会 一九六四年二月

ちりばめた珠玉の遺稿（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六四

年二月九日

『日本史の争点』和歌森太郎著（書評） 「読書の友」九二号 一九六四

年二月

私の汽車 「三和新聞」第一四三号 一九六四年二月

フランスの中国研究 「毎日新聞」（夕刊） 一九六四年二月一〇日

中国の美術について 日本美術会事務局「美術運動」第六七号 一九六四

年二月

『雲岡と竜門』長広敏雄著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六四年三月二九日

中国での鑑真顕彰について 角川書店『日本絵巻物全集』月報15

一九六四年四月

かざりの美

① はにわ 「北海道新聞」

一九六四年四月四日

② 唐風の美女 「北海道新聞」

一九六四年四月一日

③ もみじ狩りの女 「北海道新聞」

一九六四年四月一八日

④ 扇をもつ旅の女性 「北海道新聞」

一九六四年四月二五日

⑤ じゅずを持つ武将夫人 「北海道新聞」

一九六四年五月二日

⑥ 踊るずきんの女 「北海道新聞」

一九六四年五月九日

⑦ 髪結う女 「北海道新聞」

一九六四年五月一六日

⑧ 歌磨美人のアクセサリ 「北海道新聞」

一九六四年五月二四日

『難波の宮』山根徳太郎著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六四年五月二五日

かざりの美 ⑨ 鹿鳴館婦人 「北海道新聞」 一九六四年五月二九日

DDRとの美術交流のこと 日本ドイツ民主共和国友好協会「日独友

好ニュース」No.5 一九六四年六月

かざりの美 ⑩ 京の仲居 「北海道新聞」 一九六四年六月六日

書画集『槐安居楽事』『徐文長、石濤、趙之謙』（書評） 「読売新聞」

一九六四年六月一四日

『大河内文書』さねとう・けいしゅう編著（書評） 毎日新聞社「サン

デー毎日」一九六四年六月二八日

民俗のなかの美術 河出書房「日本の民俗」月報3 一九六四年七月

私の仏教 二一会論編集部「まんだら」一九六四年七月

近代文化史上の人々⑨岡倉天心 「愛媛新聞」一九六四年七月二五日

玄奘三蔵について 日本中国文化交流協会「日中文化交流」No.83

一九六四年七月

日本文化の百年⑨岡倉天心 「新潟日報」一九六四年九月九日

『黄竜と東風』伊藤武雄著（書評） 日本中国文化交流協会「日中文化

交流」No.85 一九六四年九月

岡倉天心について（NHK第2放送用原稿）一九六四年一〇月

『世界の現勢』——「現代」別巻I（書評） 毎日新聞社「サンデー毎

日」一九六四年一〇月二一日

教養文庫の美術書を前にして 「図書新聞」一九六四年一〇月三二日

『仏像の表情』入江泰吉作品集 「読売新聞」（夕刊）一九六四年一

月五日

『天心とその書簡』下村英時編（書評） 「朝日ジャーナル」No.46

一九六四年十一月十三日【十五日】

現代中国書道の側面 淡交社「淡交増刊号中国の書」一九六四年

十一月

『日本近代文学図録』日本近代文学館編（書評） 「図書新聞」一九六四

年十一月二八日

年一二月六日

一九六五年

日中文化交流十五年小史 『新中国年鑑』一九六五年版 一九六五年

一月

『近きより』正木ひろし著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六五年一月三日

岡倉天心 明治の美術界領導 逆用された「アジアは一つ」 「神戸新

聞」一九六五年一月二七日

岡倉天心 『東洋の理想』 毎日新聞社「エコノミスト」一九六五年四

月一三日

本とわたし 春秋社「歴史評論」一九六五年五月

五人の作品の寸評 日本美術会事務局「美術運動」第七二号 一九六五

年五月

中国の美術改造 「朝日新聞」（夕刊）一九六五年五月二七日

『わが半生』（上）愛新覚羅溥儀著、新島淳良、丸山昇訳（書評） 日

本中国文化交流協会「日中文化交流」No.94 一九六五年六月

一九六五年六月一三日

『古典美への旅』亀井勝一郎著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六五年六月一三日

岡倉天心と仏教思想（講演） 日本仏教思想史研究会六月例会 一九六五

年六月

『三十三年の夢』宮崎滔天著（書評） 毎日新聞社「エコノミスト」

一九六五年六月二九日【欠】

プロレタリア美術前史について——I初期社会主義の時代—— 日本

- 美術会事務局「美術運動」第七三号 一九六五年七月
鑑賞教育について「造形芸術」第八〇号 一九六五年八月
- 『中国語と中国文化』中国語学研究会関西支部編（書評） 日本中国文
化交流協会「日中文化交流」No.96 一九六五年八月
- 『ギリシャの島々』佐々木静一著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」
一九六五年八月一五日
- 『中国からの手紙』I A・L・ストロング著・藤村俊郎訳（書評）
毎日新聞社「サンデー毎日」一九六五年八月二九日
- 妄語・新人論 日動画廊「繪」No.19 一九六五年九月
- 『中国の八大小説』大阪市立大学中国文学研究室編（書評） 日本中国
文化交流協会「日中文化交流」No.97 一九六五年九月
- 『日本史（教科書）』坂本太郎著（書評） 河出書房新社「歴史地理教育」
一九六五年九月
- 戦後20年の美術・絵画・版画「三彩」増刊号（書評）「図書新聞」
一九六五年九月一日
- 『仏像のみかた』倉田久作著（書評）「図書新聞」一九六五年九月
二五日
- 日本近代美術における中国「文学」一九六五年一〇月
『嶺雲揺曳』田岡嶺雲著（書評） 毎日新聞社「エコノミスト」
一九六五年一〇月二二日
- 『歴史家のみた日本文化』家永三郎著（書評） 毎日新聞社「サンデー
毎日」一九六五年一〇月一七日
- 『明治人―その青春群像』色川大吉著（書評） 毎日新聞社「サンデー
毎日」一九六五年一〇月三一日
- 會津八一素描 講談社『日本現代文学全集』『會津八一外集』一九六五
年一月
- 『日本近代文学図録』日本近代文学館編（書評）「図書新聞」一九六五
年一月二八日
- アンケイト・今年の美術展 東京国立博物館「国立博物館ニュース」
第二三三号 一九六五年二月
- ゲンの死の歌 動物文学会「動物文学」第二六七号 一九六五年一二
月
- 渾齋忌「毎日新聞」（夕刊）一九六五年一二月三日
- 大正期の洋画について（1）東京三一書房『日本の名画・洋画百選』
月報4 一九六五年二月
- 日本美術交流の現状 日中学術交流懇談会（関東）準備会「日中学術
交流」第二号 一九六五年二月
- 『中国の土偶』佐藤雅彦著（書評）「週刊読書人」一九六五年一二月
一九六六年
- 小川芋銭の『草汁漫画』について「和光大学紀要」一九六六年六月
傳抱石先生を偲ぶ 日本中国文化交流協会「日中文化交流」No.100
一九六六年一月
- 『百人の書蹟』永島福太郎著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」
一九六六年一月九日
- 講演（長野市善光寺随行坊）長野県絵の会 一九六六年一月
『中国の印章』羅福頤、王人聰著・安藤更生訳（書評） 日本中国文
化交流協会「日中文化交流」No.101 一九六六年二月

大正期の洋画について(2) 東京二書房『日本の名画・洋画百選』

月報5 一九六六年二月

連載3回プロレタリア美術小史②の補遺 日本美術会事務局『美術運動』75 一九六六年二月

乾陵のちかくで 春秋社「春秋」二・三No.71 一九六六年二月

『ピカソとの生活』F・ジロー、C・レイク著・瀬木慎一訳(書評)

毎日新聞社「サンデー毎日」一九六六年二月二七日

『戦後日本の歴史』井上清著(書評) 毎日新聞社「エコノミスト」

一九六六年三月一日

夢想 和光学園親睦会「和光つうしん」一九六六年三月一九日

宮川寅雄書画小品展 新樹画廊(案内ハガキ) 一九六六年四月

専門講座の活用について 学校教育研究所「高等学校教育研究」

一九六五年六月

『現代文化論』中島健蔵著(書評)「読書の友」一九六六年六月

永泰公主墓とその発掘の概要「西安碑林」一九六六年七月

文化史の見方 宮川寅雄氏にきく 河出書房新社「歴史地理教育」124

一九六六年九月

建国記念日のこと「民主文学」一九六六年一〇月

伝 張即之の書簡 秩父商會 一九六六年一〇月

『日本宗教造型論』水尾比呂志著(書評)「産経新聞」一九六六年

一〇月一二日

シンポジウム「最近の海外事情」和光大学(第一回課外講座)

一九六六年一〇月

日本の伝統から何を学ぶか(講演) リアリズム美術研究会 一九六六

年一〇月

『私は世界を変える』『革命の航路を追って』『アンナ・ルイズ・スト

ロング自叙伝』上・下(書評) 日本中国文化交流協会「日中文化交流」No.110 一九六六年一月

中国の文化財「朝日新聞」(夕刊) 一九六六年一月八日

海外旅行から帰って来て(座談会) 雑誌「和光」編集委員会「和光」

創刊号 一九六六年一月

芯のとおった新聞を 和光大学新聞会「和光大学新聞」第一号

一九六六年一月

近代美術の中の浮世絵(講演) 日本浮世絵協会(蔵前工業会館ホール)

一九六六年一月

『日本の近代美術』土方定一著(書評)「週刊読書人」一九六六年

一月【二八日】

亀井勝一郎氏を悼む「読書の友」一九六六年二月

『日本の近代美術』土方定一著(書評) 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九六六年二月一五日【二五日】

一九六七年

『碧桃』のころ「日本経済新聞」一九六七年一月二日

ルーマニアのこと『現代東欧文学全集』第九卷月報6 一九六七年

二月

アトリエ訪問 森芳雄 美術出版社「美術手帖」一九六七年二月

『留日回顧』景梅九著・大高・波多野訳(書評) 毎日新聞社「サンデー

毎日」一九六七年二月一二日

毎日」一九六七年二月一二日

- 『信州の石仏』池田三四郎著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」
一九六七年二月二二日
- 明治百年ムードと文化財指定について 美術出版社「みづゑ」No.747
一九六七年四月
- ひとつの感想 労働旬報社「労働運動史研究」四七号 一九六七年四月
月
- 外国紀行というものについて「春秋」一九六七年五月
- 人間くさい北斎 朝日新聞社「朝日ジャーナル」一九六七年五月七日
日
- 現代中国問題を理解するための本（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」
一九六七年五月一四日
- 『心のふるさと』吉野秀雄著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」
一九六七年五月二八日
- 『南京餘唱解題』の補遺 校倉書房「銅鑼」18 一九六七年六月
- 『近代画家論』ヴェントゥーリ著・高階、坂本、佐々木訳（書評） 毎
日新聞社「サンデー毎日」一九六七年七月二三日
- 東山文化——時代と背景—— 小原流挿花 一九六七年八月
- 明治ナシヨナリズムと岡倉天心 毎日新聞社「エコノミスト」
一九六七年八月八日
- 初期の会津八一歌集の覆刻について「日本古書通信」第二八〇号
一九六七年八月
- 『揚子江のほとり』武田泰淳著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」
一九六七年八月二七日
- 『画人齊白石』杉村勇造著（書評） 朝日新聞社「朝日ジャーナル」
一九六八年九月一七日
- 『支那革命軍談』宮崎滔天著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」
一九六七年一〇月一日
- 吉野秀雄のこと 角川書店「短歌」一九六七年一〇月
- 『中国の法と社会と歴史』仁位田陞著（書評）「和光大学新聞」第五
号 一九六七年一〇月
- 一九六八年
- 會津八一の怒り 文化出版局 季刊「銀花」一九六八年一月
- 平城宮東院址の危機 「毎日新聞」(夕刊) 一九六八年三月九日
- 平城宮保存問題懇談会速記録【ママ】一九六八年三月
- 偉大な教師・会津八一 新潮社「日本詩人全集」第18回、釈道空、会
津八一（第一六卷月報）一九六八年四月
- 花冷え 福田栄一（杜良、田栄、すみ、つねの連歌）古今短歌会「古
今」第十卷第二号、通卷五七号 一九六八年四月
- 『消えた名画』M・エステロウ著・木村忠雄訳 毎日新聞社「サン
デー毎日」一九六八年四月一四日
- 随筆風貌 坪内逍遙 「和光大学新聞」第九号 一九六八年四月
- 随筆風貌 高村光太郎 「和光大学新聞」第一〇号 一九六八年五月
- 『嶺雲揺曳』田岡嶺雲著（書評）「朝日新聞」一九六八年五月二二日
- 『廿世紀之怪物帝国主義』幸徳秋水著（明治34年）「展望」二四四号
一九六八年六月
- 『秋風秋雨人を愁殺す』武田泰淳著（書評） 日本中国文化交流協会
「日中文化交流」No.130 一九六八年六月

- 随筆風貌 亀井勝一郎 「和光大学新聞」第一一号 一九六八年六月
『イタリアの美術』A・ブランド著・中森義宗訳（書評） 毎日新聞社
「サンデー毎日」 一九六八年六月二三日
『江戸の洋画家』小野忠重（書評） 朝日新聞社「朝日ジャーナル」No. 26 一九六八年六月【二三日】
齊白石小論 「美術工藝」第三五八号 一九六八年七月
『きさらぎやよひ』福田栄一歌集（書評） 「短歌新聞」 一九六八年七月一〇日
詩誌「碧桃」と「草」 「図書新聞」 一九六八年八月一〇日
『坂本繁二郎の道』谷口治達著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六八年八月二一日
『長岡京発掘』福山敏男、高橋徹、中山修一、浪貝毅（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六八年九月【二一日】
『絵金』広末保、藤村欣市朗著（書評） 「図書新聞」 一九六八年九月二二日
瘦鶴のごとき書 文化出版局・季刊「銀花」 一九六八年十一月
会津八一を話し合う会 東京歌話会十一月例会 一九六八年十一月
『明治の精神』色川大吉著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六八年十一月二七日
鬚光と私 現代画廊（鬚光画稿展パンフレット） 一九六八年十一月
わが愛玩の記 校倉書房「銅鑼」20 一九六八年二月
一九六九年
吼える巨木 文化出版局 季刊「銀花」 一九六九年一月
現代に於る【ママ】抒情詩 きさらぎやよひ評 古今短歌会「古今」第六〇号 一九六九年一月
『明治の洋画』原田実（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六九年一月二二日
『語るピカソ』ブラッサイ著・飯島耕一、大岡信訳（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六九年二月九日
随筆風貌 維新前史にメスを入れた服部之總と近代史研究会 「和光大学新聞」第一九号 一九六九年五月
『明治女性史、文明開化篇』村上信彦著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六九年五月二五日
宮川寅雄氏からの書翰 『南都十首』梅根悟 一九六九年五月
『社会運動の半世紀』展をみて 「朝日新聞」(夕刊) 一九六九年五月二六日
『中国講談選』立間祥介編訳（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六九年六月二九日
『吉野秀雄全集』全七卷（書評） 「週刊読書人」 一九六九年七月二二日
『人間の死にかた』中野好夫著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九六九年八月二七日
『中国美術雑稿』安藤更生著（書評） 「出版ダイジェスト」六三一号 一九六九年九月一日
『会津八一』余滴 「朝日新聞社」(夕刊) 一九六九年九月一九日
『体系日本史叢書⑦』生活史Ⅲ 森末義彰、宝月圭吾、小西四郎編（書評） 「東京新聞」 一九六九年一〇月六日

私の嶺雲 法政大学出版局『田岡嶺雲全集』第五卷附録 一九六九年

一一月

中国事情報告会「進められる教育革命」北京科学シンポジウム日本

準備会 一九六九年一二月

筈篋引論解題 中央公論美術出版『筈篋引・影印本』別添冊 一九六九

年二月

一九七〇年

鬘光の「眼のある風景」東京国立博物館「国立博物館ニュース」第

二七三号 一九七〇年二月【一九六七年】

逸見猶吉のこと「早稲田文学」第二卷第三号 一九七〇年三月

鬘光と「馬」をめぐって 岩波書店「世界」一九七〇年三月

『印象主義の戦い』アンリ・ド・ベルビル著・中山公男他訳編（書評）

毎日新聞社「サンデー毎日」一九七〇年三月二九日

『キリシタン—史実と美術—』松田毅一著（書評）「出版ニュース」

一九七〇年四月

『神奈川県美術風土記』——幕末明治初期篇・神奈川県立近代美術館

編（書評）三彩社「三彩」一九七〇年四月

『奇想の系譜』辻惟雄著（書評）毎日新聞社「サンデー毎日」一九七〇

年四月五日

芭蕉を見つめる龍之介と犀星の目 名随想再録（解説）文化出版局

（季刊）「銀花」第一号 一九七〇年四月

『昭和戯作三昧』かもよしひさ漫画集（書評）毎日新聞社「サンデー

毎日」一九七〇年四月二六日

鷺山（短歌3首）古今短歌会「古今」第七五号 一九七〇年五月

『絵のある手紙』木村荘八著（書評）毎日新聞社「サンデー毎日」

一九七〇年五月三二日

冬花亭回想「この道」一九七〇年六月

中国の美術について「NHK中国語入門」一九七〇年六月

思い出の本 日本古書通信社「日本古書通信」一九七〇年六月【二五

日】

バルビゾン派と日本 読売新聞社（ミレー展カタログ）一九七〇年

六月

吉野秀雄のますらおぶり 文化出版局（季刊）「銀花」第二号 一九七〇

年七月

フェノロサと芳崖 学習研究社『日本と世界の歴史』第一四巻【一九

巻】一九七〇年八月【一九七一年三月】

天心とその弟子「北海道新聞」（夕刊）一九七〇年八月二八日

『荻原守衛』林文雄著（書評）毎日新聞社「サンデー毎日」一九七〇

年九月六日

どう見る還つて来た戦争画（アンケート）時の美術社「美術グラフ」

一九七〇年一〇月一五日【九月】

『古い造形の新らしさ』北川桃雄著（書評）毎日新聞「サンデー毎日」

一九七〇年九月二〇日

『古い造形の新らしさ』『壺中天』北川桃雄著（書評）「週刊読書人」

一九七〇年一〇月五日

テーマについて（アンケート）時の美術社「美術グラフ」一九七〇

年一〇月【一五日】

丈二の世界 現代画廊（遺作、宮崎丈二油絵展パンフレット）

一九七〇年十一月

ある詩人の記 「小さな蕾」 一九七〇年十一月

『観音堂』（解題） 中央公論美術出版 一九七〇年十一月

一九七一年

中国の文化革命と美術（対談） 「画家」季刊第一三三号 一九七一年

月

鑑真和上と私 三彩社『東洋美術選書』第二三（鑑真）月報10 一九七一年

年一月

『南蛮屏風』岡本良知、高見沢忠雄著（書評） 毎日新聞社「サンデー

毎日」 一九七一年一月三日

顔真卿閑想 中央公論社「月報」2第四卷附録 一九七一年一月

『南都逍遙』安藤更生著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」 一九七一年

年一月一〇日【滝口宏評】

大逆事件追悼記念集会 秋水の漢詩について（講演） 大逆事件の真

実をあきらかにする会 一九七一年一月

中国美術界の現状について 『小学館版・原色世界の美術』付録13

一九七一年二月

渾齋忌 月刊「建築」 一九七一年二月

『芸苑雑稿』（解説） 平凡社「東洋文庫」 一九七一年三月

『良寛』唐木順三著（書評） 「週刊読書人」（日本詩人選20） 一九七一年

年三月【一五日】

変な教師 「和光大学通信」No.2 一九七一年四月

白鷺だより 英会「はなぶさ」第四号 一九七一年六月

横山大観の「屈原」について 「舞曲扇林」第七号 一九七一年六月

中国の古文物発掘 「毎日新聞」（夕刊） 一九七一年七月一四日

中国の故宮博物館をたずねて（宮川・井上両教授に聞く） 「朝日新聞」

（夕刊） 一九七一年七月一四日

中国の古文物発掘 香港「大公報」（原載「毎日新聞」夕刊）

一九七一年七月一六日

中国の都市事情（第25回夏期教養講座） 北原文化クラブ・中野区教

育委員会（講座案内） 一九七一年八月

『滿城漢墓』彩色片先睹記 香港「大公報」 一九七一年八月一日

山鳩（解題） 中央公論美術出版『山鳩・影印本』添冊 一九七一年

八月

とりとめなく 講談社『亀井勝一郎全集』月報第五号 一九七一年九

月二〇日

美術講座・生活の中の美術（社会の中の美術） 町田市教育委員会

（四六年度市民講座） 一九七一年九月

私と中国 「北海道新聞」 一九七一年九月二三日

杏と荔枝 太白書屋「太白」第九号 一九七一年九月

文化大革命下の考古美術事情 月刊「考古学ジャーナル」No.60 一九七一年

年九月

北京大学にて「聖教新聞」 一九七一年一〇月三日

文革中の偉大な業績 朝日新聞社「アサヒグラフ」 一九七一年一〇

月八日

中国における古典籍の発見（故宮博物院見聞余記） 「出版ダイジェス

ト 一九七二年一〇月

開花待つ中国の現代芸術 宮川寅雄、杉村春子(対談) 「読売新聞」

一九七二年一月八日

私の見た中国 古美術発掘 「西日本新聞」(夕刊) 一九七二年一月

月八日

会见廖承志 香港「大公報」 一九七二年一月一日

中国文物陸續出土 香港「大公報」 一九七二年二月

住民自らの協力を(会津八一記念館設立のために) 「新潟日報」

一九七二年二月二〇日

一九七二年

荻原守衛 『ブリタニカ国際大百科事典』 一九七二年一月

文化財発掘と保護 大修館版『新』中国年鑑 一九七二年一月

岡倉天心 『ブリタニカ国際大百科事典』 一九七二年一月

序言(シルクロード漢唐織物説明) 文物出版社 一九七二年一月

「新生中国の銅器」最近発見の銅製の中国古文物 日本銅センター「銅」

第二八号 一九七二年一月

西安古文物見学記 三彩社「三彩」 一九七二年一月

喜看「李白與杜甫」(書評) 香港「大公報」 一九七二年二月

教養特集「萬鉄五郎」針生二郎・宮川寅雄他(放送台本) 一九七二年

年二月

瓢逸と苦渋——萬鉄五郎の世界—— 「芸術生活」 一九七二年三月

喜聞「文物」「考古」出版 香港「大公報」 一九七二年三月

奈良美術の紹介者たち 文芸春秋社「文芸春秋」臨時増刊 一九七二年

年四月

「麵と豚と革命」ミュールダール、ケレス共著・新井宝雄訳(書評)

毎日新聞社「サンデー毎日」 一九七二年四月一六日

文化財・考古学と文化大革命 宮川寅雄、池田醇一(対談) 中国研

究所「中国研究月報」290 一九七二年四月

山口剛と会津八一 中央公論社「山口剛著作集」月報3 一九七二年

五月

中国の経済と生活(講演) 東京日石会・東京西日石会(時事講演会)

一九七二年五月

三岸好太郎の世界⑤ みごとな抒情性 「東京新聞」(夕刊) 一九七二年

年五月二六日

白鷺だより 英会「はなぶさ」【ママ】 一九七二年六月

『唐』卜天寿写鄭氏注論語の日本語版刊行について 日本中国文化

交流協会「日中文化交流」No.182 一九七二年七月

いかるがの塔 篠田銘木店「木」通巻No.96 一九七二年七月

中国の考古学・美術の現状 「読売新聞」 一九七二年七月一九日

古代の日本「中国出土文物をめぐって」第七回朝日ゼミナール

一九七二年八月

「あざやかな古代中国文化」鈴木・関野・宮川(座談会) 「朝日新聞」

一九七二年八月九日

神秘つきぬ長沙・馬王堆古墳(王治秋氏に聞く・北京にて) 「読売新

聞」(夕刊) 一九七二年八月二五日

驚嘆した「二千年前の貴婦人」(宮川寅雄氏に聞く) 「公明新聞」

一九七二年八月三一日

- 中国・長沙の古墳（講演） 日本中国文化交流協会・朝日新聞社
一九七二年八月
- 『殘燈集稿本』解題 中央公論美術出版『殘燈集稿本・影印本』添冊
一九七二年九月
- 日中文化交流の新しい展望 「信濃毎日新聞」一九七二年一〇月一日
- 古代中国の文化「出土文物を見て」 第八回朝日ゼミナール
一九七二年一〇月
- 中国考古・美術の近況 「朝日新聞」(夕刊) 一九七二年一二月八日
- 北京小記 「大公报」一九七二年一二月一四日
- 『中国往還』加藤周一著(書評) 日本中国文化交流協会「日中文化交流」No.188 一九七二年一二月
- 中村彝と会津八一 「小さな蕾」一九七二年一二月
- 萬鉄五郎ほほ杖の人 「サンケイ新聞」一九七二年一二月八日
- 一九七三年
- 秋艸堂記 日本地建「どおむす」第一号 一九七三年一月
- 中国の色「暮しのペンキ」第二号 一九七三年一月
- 最近とどいたお便り 「農村だより」一九七三年一月
- 中国の歴史を訪ねて(講演) 小西六写真工業 一九七三年二月
- 光太郎山居往訪記 月刊「健康」一九七三年三月
- 書道芸術別巻第三『中国書道史』(書評) 「週刊読書人」一九七三年三月一二日
- 光太郎の山居 日本地建「どおむす」第二号 一九七三年四月
- 中国古美術界の近状 「中日新聞」一九七三年四月一〇日
- 長沙墳墓と中国古美術(講演) 経済団体連合会「経団連クラブ会報」
一九七三年四月
- 馬王堆漢墓 講談社『現代世界百科大事典』補遺2 一九七三年四月
- 一九七三節JUN第四回 養清堂画廊 一九七三年四月
- 秋艸道人あれこれ 筑摩書房『現代日本文學大系』第三九卷月報91
一九七三年六月
- 北京・故宮博物院 平凡社「太陽」特集号 一九七三年六月
- 歴史と文化遺産 現代教育研究所「現研ニュース」No.6 一九七三年六月
- 文化大革命と出土文物 東京国立博物館「国立博物館ニュース」第
三二二号 一九七三年六月
- 『毛沢東』ハン・スーイン・松岡洋子編訳(書評) 毎日新聞社「サン
デー毎日」一九七三年六月三日
- 王治秋宮川在東京電視對談「關於漢屍死因和其他」 香港「大公报」
一九七三年六月二一日
- 「出土文物展に寄せて」両国(中国・日本)学者座談会 「朝日新聞」
一九七三年六月一三日
- よみがえる古代中国座談会(上) 「岐阜日日新聞」一九七三年六月
一四日
- よみがえる古代中国座談会(下) 「岐阜日日新聞」一九七三年六月
一五日
- 中国考古学 目覚しい発見や発掘(日中両国学者の座談会) 「中国新
聞」一九七三年六月一五日
- 70年代中国の文化問題 中国研究所(一九七三年前期講座) 一九七三

年六月

中国出土文物と文化交流 「東京タイムズ」 一九七三年六月二二日

中国出土文物展によせて ニューサイエンス社・月刊「考古学ジャーナル」No.83 一九七三年六月

ナル」No.83 一九七三年六月

王維の輞川別業 日本地建「どおむす」第三号 一九七三年七月

「伊豆の海」土田麦僊 秩父商會 一九七三年七月

略談中国出土文物展 香港「大公報」一九七三年七月

中華人民共和国出土文物展をめぐって 図書月販「ほるぷ新聞」

一九七三年七月五日

中国考古文物界の現状（講演） 中国文化研究協会 一九七三年七月

中国の出土文物と文化大革命 中国研究所「中国研究月報」第三〇六

号 一九七三年八月

書斎増築 「日本地建」どおむす 第四号 一九七三年一〇月

『古寺巡礼』と会津八一 「毎日新聞」 一九七三年一〇月八日

トンカツ、コロッケ論 毎日新聞社「毎日ライフ」 一九七三年一

月

『頂戴物圖録』解題 中央公論美術出版『頂戴物圖録・影印本』別添

冊 一九七三年十一月

結核時代のこと 都医協連「Bamboo」 一九七三年一二月

一九七四年

靈華と林響 求龍堂「求龍堂出版案内」 一九七四年一月

アララギ歌人の歌のなかの家 日本地建「どおむす」第五号 一九七四

年一月

中村彝覚書 美術出版社「美術手帖」 一九七四年一月

中国の「文化大革命中の出土品」切手 日本郵趣協会（切手マガジン

「郵趣」 一九七四年一月

異郷の川 前澤工業株式会社「みずのわ」No.23 一九七四年一月

大津絵 秩父商會 一九七四年二月

近事閑談 毎日新聞社「エコノミスト」 一九七四年二月一日

雲岡石窟雑感 新潮社「芸術新潮」 一九七四年三月

『暗い夜の記録』許広平著 安藤彦太郎訳（書評） 日本中国文化交流

協会「日中文化交流」No.203 一九七四年三月

中国の孔子批判の伝統 「公明新聞」 一九七四年三月

『日本書人伝』中田勇次郎著（書評） 「サンケイ新聞」 一九七四年三

月一日

中国の文化と日本（講演） 「大阪婦人の日」実行委員会 一九七四年

四月

一九七四筈JUN第5回 養精堂画廊 一九七四年四月

『村莊雜事』（解題） 中央公論美術出版 一九七四年五月

会津八一（「柳色水光」の書について） 秩父商會 一九七四年六月

会津八一と信州 「信濃毎日新聞」 一九七四年六月八日

『音楽とわたくし』中島健蔵著（書評） 日本中国文化交流協会「日中

文化交流」No.206 一九七四年六月

『自画像』への断想 日本美術社「日本美術」一〇九号 一九七四年

七月

会津八一記念館によせて 「新潟日報」 一九七四年七月二一日

中国の古壁画について 三彩社「古美術」45 一九七四年七月

- 訪中考古学者代表団帰国座談会 「新潟日報」 一九七四年八月三日
 故宮博物院瞥見 JAL 「ジェット・トラベル」 一九七四年九月
 中国考古の旅(上・中・下) 「新潟日報」 一九七四年九月四〜六日
 中国考古の旅を終えて(批林批孔運動下の「古為今用」) 「毎日新聞」
 (夕刊) 一九七四年九月六日
 中国——考古の旅(上) —— 「信濃毎日新聞」 一九七四年九月二
 日
 日中文化交流の前途 「東京タイムズ」 一九七四年九月二九日
 葉師寺と会津八一 葉師寺「葉師寺」No.23 一九七四年一〇月
 『岡倉天心』堀岡弥寿子著(書評) 「北海道新聞」 一九七四年一〇月
 一三日
 古代史研究と階級教育(特別報告) (現代中国学会第24回全国学術大
 会) 一九七四年一〇月
 再び中国の古壁画について 三彩社「古美術」46 一九七四年一〇月
 中国考古旅行管見 「早稲田学報」 一九七四年一二月
 中国考古紀行 中央公論社「歴史と人物」 一九七四年一二月
 隋代陶房と玉虫厨子 「毎日新聞」(夕刊) 一九七四年一二月八日
 【七五年】
 長沙・馬王堆の三つの墓 新人物往来社「歴史読本」 一九七四年
 一二月
 俳句と私 みそさざい社「みそさざい」 一九七四年一二月
 中国考古寸描 渋沢青淵記念財団竜門社「青淵」第三〇九号 一九七四
 年二月
 一九七五年
 書いてみたい人について 「歴史と文学」春季号 一九七五年一月
 旧態に学ぶ現代史 法蔵館(『中國文化史蹟』カタログ)【一九七五年一月】
 求龍堂版『蘇東坡豊楽亭帖』(内容説明書) 求龍堂 一九七五年一月
 世界陶磁の撩乱たる林のなかで 小学館版『世界陶磁全集』全三二巻
 (パンフレット) 一九七五年一月
 中国壁画展を見て——北九州市立美術館の開館記念—— 新潮社「芸
 術新潮」 一九七五年一月
 価値と見どころ・宮川寅雄・土居淑子(対談) 「毎日新聞」 一九七五
 年一月四日
 漢唐壁画寸感 毎日新聞社「毎日グラフ」 一九七五年二月一五日
 漢の武将の墓をまもる「石人石獸」 新潮社「芸術新潮」 一九七五年二
 月
 わが小美術館 「サンケイ新聞」(夕刊) 一九七五年二月一四日
 漢唐壁画礼讃 「世界画報」 一九七五年三月
 揚州再訪記 ホテルオークラ「葵」No.41 一九七五年三月
 福田栄一君を哭す 「短歌新聞」 一九七五年三月一〇日
 会津八一記念館が完成 「新潟日報」 一九七五年三月二四日
 『飲中八仙歌』(解題) 中央公論美術出版『飲中八仙歌・影印本』別添
 冊 一九七五年四月
 『中国の歴史』第10巻 日比野丈夫編(書評) 「週刊読書人」 一九七五
 年四月一四日
 書いてみたい人々について 講談社 季刊「歴史と文学」春季号
 一九七五年四月

- 唐 李寿墓のあらまし 「古美術」48 一九七五年六月
- 雲崗石窟の近影 法蔵館『中国文化史蹟』月報2 一九七五年七月
- 近況 日本文芸家協会「文芸家協会ニュース」一九七五年七月
- 雲崗石窟を訪れて 「毎日新聞」(夕刊) 一九七五年七月一〇日
- 訪雲崗石窟 香港「大公報」一九七五年七月一九日
- 雲崗石窟は守られていたか 「毎日新聞」一九七五年七月二二日
- 「魯迅と中国版画展」に思う 「聖教新聞」一九七五年七月二五日
- 魯迅を憶う 富士美術館「魯迅を憶う」一九七五年七月
- 会津八一 NHKサービスセンター「NHKカセット 文学の心・文豪は語る」5 一九七五年八月
- 狩谷椽斎のこと 光風社書店「周辺」第四号 一九七五年八月
- 大同雲崗石窟を訪ねて 毎日新聞社「毎日グラフ」一九七五年八月三一日
- 始皇帝の地底大軍団 中央公論社「中央公論」一九七五年九月
- 大同雲崗往訪記 三彩社「古美術」49 一九七五年九月
- 良寛遺跡 「毎日新聞」(夕刊) 一九七五年九月三日
- 国家文物事業管理局長王治秋氏に聞く・中国の武人俑男屍調査詳細 「読売新聞」(夕刊) 一九七五年九月五日
- 再訪中国・聴王治秋談秦陵兵馬俑和男屍 香港「大公報」一九七五年九月一日
- 中国歴史博物館参観記 日本中国文化交流協会「日中文化交流」No.222 一九七五年一〇月
- 中国美術について(講演) 日本洋画商協同組合 一九七五年一〇月
- 奈良の会津八一(テレビ出演) (テレビ番組「真珠の小箱」) 一九七五年一〇月
- 最近の中国(講演) (トインビー市民の会) 一九七五年一〇月
- 中国美術の発見(講演) (朝日カルチャーセンター) 一九七五年一〇月
- 『中国——生活の質』ウィルフレッド・G・バーチエツト著・ルウイ・アレイ協力・杉山市平訳 毎日新聞社「エコノミスト」一九七五年一〇月二八日
- 奇遇 書論研究会「書論」第七号 一九七五年十一月
- 中国の考古学の現状(講演) 歴史教育研究所 一九七五年十一月
- 印象(解題) 中央公論美術出版『印象・影印本』別添冊 一九七五年十一月
- 一九七六年
- 日域画人訪中記(訪中美術家代表団7人による「中国を描く」新作展) 読売新聞社、伊勢丹、「アートよみうり」一九七六年
- 会津八一の中国学 淡交社「淡交」一九七六年二月
- 筆のままに 角川書店「日本文化季報」一九七六年二月
- ガンダラからバミヤンへ(二) 講談社「本」創刊号 一九七六年二月
- 秦始皇帝墓域の巨俑 三彩社「古美術」50 一九七六年二月
- 物怪のある雛 新潮社「芸術新潮」一九七六年三月
- 最近の中国出土文物(講演) 町田郷土資料館「開館記念講演集」一九七六年三月
- ありがとう福田栄一 古今短歌会「古今」第一三七号 一九七六年三月

- 月
- 中国考古学の現状 歴史教育研究所「歴史教育研究」59 一九七六年三月
- アスタナの絹の花 華道家元池坊総務所「くおーたりー池」一九七六年四月
- ガンダーラからバーミヤンへ(二) 講談社「本」No.2 一九七六年四月
- 愛すべき酒友 牧羊社「俳句とエッセイ」一九七六年五月
- 中川一政先生讃 BSN新潟美術館「中川一政 書と篆刻」(展覧会カタログ) 一九七六年五月【七五年五月】
- 小川芋銭『草汁漫画』複製本(論文・解題) 造形社(複製本『草汁漫画』の出版にあたって) 一九七六年五月
- 中国古代青銅器の世界 日本美術社「日本美術」一九七六年六月
- 妙なテーマで 校倉書房「銅鑼」第三〇号 一九七六年六月
- 葉櫻の下で 英会「はなぶさ」第八号 一九七六年六月
- 「美と生 その相剋と溶解」立原正秋、高山辰雄、宮川寅雄(座談会) サンポウジャーナル「アサヒギャラリー」夏 一九七六年七月
- 中国考古学の過去と現在 大和書房「東アジアの古代文化」一九七六年七月
- 年七月
- 絵画を自分の言葉とするために 新潮社「芸術新潮」一九七六年九月
- 還暦過ぎでのジャズ狂い「日本経済新聞」一九七六年九月十日
- 野崎貢・小論 産報「アサヒギャラリー」秋 一九七六年一〇月
- 戦争記録画公開の背後にあるもの 時の美術社「美術グラフ」一九七六年一〇月
- 年一〇月
- 記念号によせて 葛飾短歌会内四季短歌会「四季」一九七六年十一月
- 朱花書屋珍宝記 新潮社「芸術新潮」一九七六年十二月
- 近藤さんと私 近藤忠義先生追悼文集刊行会「近藤忠義先生追悼文集」一九七六年十二月
- 一九七七年
- 『福田英一全歌集』(解説) 短歌新聞社刊 一九七七年一月
- 最近の中国 トインビー市民の会「現代とトインビー」No.34 一九七七年三月
- 印人・山田正平 新潮社「芸術新潮」一九七七年四月
- 小出楯重、絵のある葉書 三彩社「三彩」No.356 一九七七年四月
- 「戦争画」公開中止が投げかけるもの「公明新聞」一九七七年四月二日
- 最近の中国古文物に接して 三彩社「古美術」52号 一九七七年五月
- 体験的白樺のこと 東京都美術館「美術館ニュース」No.318 一九七七年七月
- 年七月
- 中国と日本・女性から陵墓の話まで(陳舜臣氏との対談) 千趣会「ヒロインの世紀」第四卷 一九七七年八月
- 秘境チベットに新しい顔を見た(平山郁夫氏との対談) 小学館「クエスト」一九七七年八月
- 戦時下の作家達 キッドアイラックコレクション ギャルリイ出版部
- 「デフォルマシオン」第三号 一九七七年八月

- 「斜面季節抄」讚 光風社書店「周辺」vol. VI 一九七七年八月
現代中国の書について（中華人民共和国「現代美術」）一九七七年
九月
- 新疆を旅して 日本中国友好協会「日本と中国」長野県版 一九七七年一〇月
- 透彫樹下七尊像・文明の原像・中国出土文物展から「中日新聞」（夕刊）一九七七年一〇月二日
- 戦時下の作家達 キッドアイラックコレクション ギャルリイ出版部
「デフォルマシオン」第四号 一九七七年一〇月
- 新疆行記 日本中国文化交流協会「日中文化交流」No.250 一九七七年一〇月
- 新疆游吟（短歌） 短歌新聞社「短歌現代」一九七七年二月
幻夢 會津八一記念館「會津八一記念館会報」一九七七年二月
図説・中国の歴史十二・中国美術の流れ 講談社 一九七七年二月
『蘭におもう』陳舜臣著（書評）「週刊読書人」一九七七年二月
一二日
- 画人・青邨を懐う 光風社書店「周辺」vol. VI 一九七七年二月
會津八一と吉野秀雄——歌集『早梅集』の側面—— 彌生書房『定本・吉野秀雄歌集』月報第1号 一九七七年
- 一九七八年
- 鉄斎の画業 芸術新聞社「墨」No.10 一九七八年一月
渡辺海旭先生 大法輪閣「大法輪」一月号 一九七八年一月
新疆游吟（短歌） 日本中国文化交流協会「日中文化交流」No.253
- 一九七八年一月
新疆ウイグル自治区の考古学 「和光大学通信」vol. 8 一九七八年一月
- 万古年筆 「一同」No.13 一九七八年一月
私とバンダ 東京動物園協会「どうぶつと動物園」一九七八年二月二日
- 想像を羽ばたかせて・中華人民共和国出土文物展 「四国新聞」一九七八年二月二日
想像を羽ばたかせて・中華人民共和国出土文物展 「秋田さきがけ」夕刊 一九七八年二月三日
想像を羽ばたかせて・中華人民共和国出土文物展 「長崎新聞」一九七八年二月四日
想像を羽ばたかせて・中華人民共和国出土文物展 「高知新聞」一九七八年二月八日
明器の研究を急ぐ 「朝日新聞」一九七八年二月一三日
シルクロード仏跡の謎（前田耕作氏との対談） 講談社「日本の仏像」一九七八年二月
- 円空の生涯 大日本絵画「微笑の円空仏」一九七八年三月
祇園のこと 「ぎをん」No.74 一九七八年四月
朝鮮の友人たち 三千里社「三千里」一四号 一九七八年五月
砂漠の蛙 「直」第四号 一九七八年五月
鬘光をめぐって キッドアイラックコレクション ギャルリイ出版部
「デフォルマシオン」第八号 一九七八年六月
郭沫若院長のこと 「新潟日報」「東都【京都】新聞」一九七八年六月

月一六日

郭沫若院長のこと 「高知新聞」 一九七八年六月一七日

郭沫若院長のこと 「神奈川新聞」「沖繩タイムス」 一九七八年六月

一八日

郭沫若院長のこと 労農通信社「プロレタリア」第七五号 一九七八

年六月二五日

鑑真和上あれこれ 角川書店「絵巻・新修日本絵巻物全集」月報19

一九七八年七月

成都紀行 日中平和観行「中国旅行」No.21 一九七八年七月

無題 天幕書房「鬼」第八一号 一九七八年八月

めぐりあい・秋艸道人 会津八一先生「毎日新聞」 一九七八年九月

一日

中国美術の軌跡 日蓮正宗国際センター「民族文化」 一九七八年九

月

日中交流と考古・歴史学 「読売新聞」(夕刊) 一九七八年九月二日

私の中国考古の旅 新人物往来社「歴史読本」 一九七八年九月

中国考古學的見聞 香港「大公報」 一九七八年九月一四日

寛永文化への視点 日本新薬「京」No.43 一九七八年九月

かわりゆく博物館 講談社(世界の博物館21「故宮博物院」) 一九七八

年九月

木下李太郎のこと 「東京新聞」(夕刊) 一九七八年一〇月一四日

秋艸道人書蹟展によせて 毎日新聞社(會津八一名蹟展カタログ)

一九七八年一〇月

第一回万葉会五人展(橋本聖準、宮川寅雄、鈴木光、熊谷九寿、須田

剋太) 万葉洞(上野) 一九七八年一〇月

野崎貢さんの世界 東京セントラル絵画館(野崎貢作品展) 一九七八

年一月

中国現代絵画展 「日本経済新聞」 一九七八年一月二八日

中国考古の旅から 東方書店「東方」No.6 一九七八年二月

西域再游(短歌) 短歌新聞社「短歌現代」 一九七八年二月

中国現代絵画展を見る 「社会新報」 一九七八年二月一五日

中国国画の現在(中国現代絵画展によせて) 「公明新聞」 一九七八

年二月一六日

一九七九年

中国の文物について(講演記録) 東京美術青年会「東美」第一七号

一九七九年一月

俑の歴史と唐三彩俑の世界 太陽社「中国の三彩陶磁」 一九七九年

一月

デモの中の華楚井さん 芥川行会 追憶「みみなぐさ」 一九七九年

二月

中国の現代国画の現状 「中日新聞」(夕刊) 一九七九年三月一日

中華人民共和国シルクロード文物展 美術年鑑社「新美術新聞」No.189

一九七九年三月

シルクロード文物展について(講演) 読売新聞社、紀伊國屋書店(中

華人民共和国、シルクロード文物展開催記念、講演と映画のつど

い) 一九七九年三月

日本の美——変化してやまぬもの——「サンケイ新聞」(夕刊)

一九七九年三月一六日

奇怪な神たちの絹画「読売新聞」(夕刊) 一九七九年三月二三日

「明治」の臭い 三省堂「三省堂ぶつくれつと」No.20 一九七九年四月

奈良美術の案内者たち 朝日新聞社朝日旅の百科「奈良・大和路北

部」一九七九年四月

岡倉天心とフェノロサ 朝日カルチャーセンター「日本文化史」講座

一九七九年四月

トルファン三題 白水社『ヘディン探検紀行全集』月報第9号

一九七九年五月

己未行吟十首(短歌) 太白発行所「太白」一九七九年五月

北原一也君のこと 新潮社「芸術新潮」一九七九年五月

秋艸道人「幽賞」秩父商會 一九七九年六月

中島健蔵さんを悼む「毎日新聞」(夕刊) 一九七九年六月二三日

高橋新吉讃 永井画廊(高橋新吉書画展パンフレット) 一九七九年

六月

奈良紀行とその筆者たち 朝日新聞社朝日旅の百科「奈良・大和路南

部」一九七九年六月

秋艸道人の書 大日本絵画「遊於藝」(會津八一書複製本のパンフレッ

ト) 一九七九年七月

五年間の悲傷 短歌新聞社「短歌現代」第三卷八号 一九七九年八月

中島健蔵氏を憶う 新日本文学会「新日本文学」No.384 一九七九年八

月

「寿塔」讃 周辺の会「周辺」第三号 一九七九年八月

中島健蔵会長追悼 日本中国文化交流協会「日本文化交流」No.273

一九七九年八月

中島健蔵さんを懐う 平凡社「心」No.9 一九七九年九月

私と会津八一(放送台本) NHK「日曜美術館」一九七九年九月

鬚光覚書 東京新聞(鬚光展、カタログ) 一九七九年九月

鬚光展への誘い「東京新聞」(夕刊) 一九七九年九月二〇日

『井上長三郎画論』の刊行のこと 自由美術協会「自由美術」一九七九

年一〇月

古代中国の遺跡と美術(講座) NHK文化センター 一九七九年

一〇月

中国の五輪復帰(談話)「読売新聞」一九七九年一〇月二六日

顔真卿閑想 中央公論社「書道芸術」月報3 一九七九年一月

中国近時雑感——「四つの現代化」をめぐる—— 中央公論社「中

央公論」一九七九年一月

南京新唱 短歌新聞社「短歌現代」一九七九年一月

中国近・現代の国画の流れ 西武百貨店(中国栄宝斎展覧会カタログ)

一九七九年一月

店員の諸君へ 中村屋「なかむらや」No.63 一九七九年一月

第二回万葉五人展 万葉洞(上野) 一九七九年一月

中国の現代国画の世界 博報堂「広告」二二七号 一九七九年一月

法隆寺と会津八一(放送台本)「真珠の小箱」一九七九年一月

会津八一 平凡社(別冊太陽「早稲田百人」) 一九七九年一月

岡倉天心全集・全8巻の刊行「週刊読書人」一九七九年一月

【三〇日・一九八〇年一月七日合併号】

- 一九七〇年代の中国の考古発掘報告から——秦咸陽宮址のこと——
朝日新聞社 週刊朝日百科「世界の美術」90 一九七九年二月
- 私の中の「明治」について 三省堂『画報・日本近代の歴史』7近代
国家の光と影 一九七九年二月
- あこがれの雲崗石窟群——北魏文化の殿堂をたずねて—— 講談社
『中国の旅』2「天津と華北・東北」 一九七九年二月
- 一九八〇年
- 唐代の墓壁画と線刻画 毎日新聞社（中華人民共和国西安古代金石拓
本と壁画展） 一九八〇年一月
- 万里の長城 日本郵趣協会「万里の長城と郵票」 一九八〇年一月
- 短歌十首 和光詩社「黒百合」第三号 一九八〇年一月
- 映画「天平の甍」まで 東宝事業部「天平の甍」映画プログラム
一九八〇年一月
- 私の中の「明治」について（続）三省堂『画報・日本近代の歴史』
8 民主主義の潮流 一九八〇年一月
- 『岡倉天心全集』第五巻を読む ほるぷ「ほるぷ図書新聞」第三六六
号 一九八〇年二月
- 小川芋銭展（放送台本）NHKテレビ「日曜美術館」 一九八〇年二
月
- 中国の煎茶 後楽堂出版「煎茶」第一五号 一九八〇年二月
- 中国現代版画について りゅう「中国現代版画集」 一九八〇年三月
- シルクロードに仏教文化を尋ねて（インタビュー） 二二会「まんだら」
第七二号 一九八〇年三月
- 梅根さんと私「和光大学人文学部紀要」一四号 一九八〇年三月
- 「唐大和上東征伝」によせて 朝日広播事業局（鑑真大師像回国巡展
記念） 一九八〇年四月
- 小川芋銭 秩父商會 一九八〇年四月
- 主要な思想家——稀れな英知—— 短歌新聞社「短歌現代・特集石川
啄木と日本人」 一九八〇年四月
- 文化政策と芸術界の展望——中国から学ぶもの—— 音楽の友社「音
楽芸術」 一九八〇年四月
- 鬘光の作品について 講談社『画集鬘光』 一九八〇年四月
- 『奈良飛鳥園』島村利正著（書評）「週刊読書人」 一九八〇年四月
二八日
- 土岐さんをスケッチ「短歌新聞」第三一九号 一九八〇年五月一〇
日
- 鑑真と會津八一 早稲田大学校友会「早稲田学報」通巻九〇一号 復
刊三四巻第四号 一九八〇年五月
- 近代芸術家の書展に付して サントリー美術館（近代芸術家の書展覧
会カタログ） 一九八〇年五月
- 宮川寅雄墨書展図録 ギャラリー四季（展覧会案内葉書） 一九八〇
年五月
- 猿園 月刊健康発行所「健康」 一九八〇年六月
- 華国鋒首相来日の成果「公明新聞」 一九八〇年六月四日
- 日吉館のきよさん 講談社『奈良の宿・日吉館』 一九八〇年六月
- 近時七首（短歌）和光詩社「黒百合」第四号 一九八〇年七月
- 垂範の人士岐善磨先生 短歌新聞社「短歌現代」 一九八〇年七月

みすずかる(短歌) 古今短歌会「古今」一九八〇年七月

「書道」廃絶のすすめ 美術新聞社「年鑑・書道」81 一九八〇年七月

天心の画技その他 平凡社『岡倉天心全集』月報5 一九八〇年八月

中国美術(講演) (石川県日中友好シルクロード視察訪中団・私たち

のシルクロード写真展) 一九八〇年八月

私と朝鮮文化 朝鮮文化社「日本のなかの朝鮮文化」一九八〇年九

月

架蔵の歌集のこと 筑摩書房『現代短歌全集』月報5 一九八〇年

一〇月

大石田の秋の歌 角川書店「短歌」一九八〇年一〇月

雲岡石窟 NHK文化センター講座案内「遺跡の旅」第7集 一九八〇

年一〇月

宮川寅雄書画展 万葉洞(新潟) 一九八〇年一〇月

『西城巡礼』陳舜臣・文 樋口隆康・壁画解説 陳立人・写真(書評)

毎日新聞社「サンデー毎日」一九八〇年一〇月五日

第三回万葉会 万葉洞(上野) 一九八〇年一〇月

古都の探究者たち 保育社「大和有情」一九八〇年一二月

さまざまな晩秋 牧羊社「俳句とエッセイ」一九八〇年一二月

若き日の土岐哀果 周辺の会「周辺」終刊号 一九八〇年一二月

『北京三十五年』(上・下)——中国革命の中の日本人技師——山本市

朗著(書評)「週刊読書人」一九八〇年一二月一七日

「老年」和光詩社「黒百合」第五号 一九八〇年一二月

一九八一年

秋艸道人——生誕百年によせて「新潟日報」一九八一年一月一日

昨日、今日、楽しみは絵です(談話)「信濃毎日新聞」一九八一年

一月三〇日

「歌人日乗」その31 短歌新聞社「短歌現代」一九八一年二月

「感動しました」楼蘭の美女「読売新聞」一九八一年二月二〇日

中野重治追憶 直の会「直」第一三三号 一九八一年二月

會津八一の学芸(八一生誕100年記念、文化講演会・講演録)盛岡

一九八一年四月

敬礼・中川一政先生(中川一政新潟展カタログ)一九八一年五月

土方定一の死 直の会「直」第一四号 一九八一年五月

讚嘆(聊嬉堂展・中川一政新作展カタログ)一九八一年六月

中国吟ほか(短歌) 短歌新聞社「短歌現代」一九八一年七月

朝日村講演時代の會津八一 朝日村會津八一顕彰会 一九八一年七月

會津八一百年「新潟日報」一九八一年八月四日「大工町」和光大

学に再録

會津八一百年 新潟日報事業社(會津八一生誕百年記念出版)「會津

八一遺宝」一九八一年八月

吉野秀雄氏のこと(講演) 砂丘短歌会「砂丘」第二六七号 一九八一

年九月

白昼夢談 日本社会党中央本部機関紙局「月刊・社会党」No.302

一九八一年九月

魯迅生誕百年に想う 毛沢東思想学院「学院ニュース」第一七〇号

一九八一年九月

秋艸道人秀作展によせて 万葉洞（上野）（展覧会カタログ） 一九八一年九月

年九月

現代の巨大な達人 美術年鑑社「新美術新聞」No.275 一九八一年九月

魯迅挺辰一百周年之际 「光明日報」 一九八一年九月二十三日

『観音堂帖』（解題） 教育書籍「丹呉本観音堂別冊」 一九八一年一〇月

近代学藝人の書——素人芸の「書」と書壇的「書道」のあいだ——

芸術新聞社「墨」一〇月・臨時増刊・「近代日本の書」 一九八一年一〇月

年一〇月

若き詩人たちの像 直の会「直」第一五号 一九八一年一〇月

岳翁印譜に憶うこと『中国篆刻叢刊』呉昌碩篇（書評） 梓会出版ダ

イジエスト社「出版ダイジエスト」第二一〇〇八号 一九八一年一〇月

一〇月

私の周辺の短歌のこと 角川書店「短歌」 一九八一年一二月

一九八二年

「点魚抄」六百句」読後 「みそざざい」 一九八二年一月

敦煌行抄（短歌） 日本中国文化交流協会「日中文化交流」No.312

一九八二年一月

風土と作品（1）鹿鳴集・会津八一（放送台本） NHK文化シリーズ

ズ「文学への招待」 一九八二年一月

淡い出会いの二人 直の会「直」第一六号 一九八二年一月

沙鳩と雪 短歌周辺社「短歌・周辺」第三号 一九八二年二月

雑吟二十五首（短歌） 古今短歌会「古今」第二〇八号 一九八二年

三月

私の点鬼簿 直の会「直」第一七号 一九八二年六月

詩集『瑞枝』復刻版について 蒼士社詩集『瑞枝』復刻版付録

一九八二年九月

書と絵と詩と 信濃茶道会「石泉」百輯 一九八二年九月

遺墨展によせて 万葉洞（新潟）秋艸道人遺墨展 一九八二年九月

『歌をよむには』（論・解題） 中央公論美術出版『歌をよむには・影

印本』別添冊 一九八二年九月

現代歌人百人百書（短歌・書） 四季出版 一九八二年一〇月

「健康」誌について 月刊健康発行所「健康」第二二八号 一九八二年一〇月

年一〇月

感情を以て歌うこと 短歌新聞社「短歌新聞」第三四八号 一九八二年一〇月一〇日

年一〇月一〇日

茶恩 淡交社『草人木書苑』 一九八二年一二月

銅鑼ばなし 校倉書房「銅鑼」第四〇号 一九八二年一月

平福百穂の側面 秋田魁新報社『平福百穂素描集』 一九八二年一月

月

黄瀛の『瑞枝』復刻版の上梓について 「美的」第一五号 一九八二年一二月

年一二月

一九八三年

井上靖『シルクロード詩集』（書評） 日本中国文化交流協会「日中文化交流」No.332 一九八三年一月

文化交流」No.332 一九八三年一月

中国遊学・見たこと聞いたこと（対談） 後楽堂出版部「煎茶」第

二〇号 一九八三年一月

『筆蹟の美学』 原子朗著（書評） 毎日新聞社「サンデー毎日」

一九八三年一月二日

天山（題字） ベースボールマガジン社 一九八三年三月

私の愛用する筆記具 中央公論社「文房具の世界」別冊「暮らしの設

計」No.10 一九八三年四月

『川崎庸之歴史著作選集』をすすめる 「和光学園報」No.46 一九八三年

五月

西域再游（短歌） 日本中国文化交流協会「日中文化交流」No.341

一九八三年五月

中川一政先生新潟展に 万葉洞（新潟）（中川一政新潟展図録）

一九八三年五月

『五月野』樋口寛治歌集 短歌新聞社「短歌新聞」第三五六号 一九八三

年六月一〇日

廖承志さんの思い出 「長崎新聞」 一九八三年六月一二日

廖承志さんの思い出 「愛媛新聞」 一九八三年六月一四日

廖承志さんの思い出 「東都新聞」 一九八三年六月一五日

廖承志さんの思い出 「日本海新聞」 一九八三年六月一九日

廖承志さんの思い出 「熊本日日新聞」夕刊 一九八三年六月一六日

廖承志さんの思い出 「福井新聞」 一九八三年六月一七日

逝くこと速き 直の会「直」第一九号 一九八三年六月

廖承志先生追悼 日本中国文化交流協会「日中文化交流」No.346

一九八三年七月

随筆「夏雲」「朝日新聞」（夕刊）（毎日曜4回連載） 一九八三年八

月七〜二八日

藝術学科事始 「和光学園報」No.51 一九八三年一〇月

藝術学科事始 「和光学園報」No.52 一九八三年十一月

随筆 美濃の花の木窯「郵政」第一二号 一九八三年十一月

遠い昔の人たち 直の会「直」二〇号 一九八三年十二月

甘口辛口「新潟日報」連載 一九八三年十二月二十八日〜一九八四年

一月三日【「大工町」和光大学に再録】

一九八四年

秋艸道人と書 芸術新聞社「墨」第四三号 一九八四年三月

佐田稲子さんの会（巻頭随筆） 新日本文学会「新日本文学」No.439

一九八四年四月

反省と自戒と提言と 「和光大学通信」特別号32 一九八四年四月

砂漠の花 「サントリ―美術館」第七二号 一九八四年四月

近代学藝人の書——素人芸の「書」と書壇的「書道」のあいだ——

芸術新聞社編 一九八四年四月

書と陶芸 万葉洞（新潟・上野）宮川寅雄近作展 一九八四年五月

高山辰雄論ノート 「アート'81」 一九八四年八月

藤田経世と文化史懇談会 直の会「直」二二号 一九八四年八月

歳月の碑「アート・トップ」八三号 一九八四年九月【十、十一月号】

或る日の恐怖 「経済往来」 一九八四年十二月

西順蔵さん 直の会「直」二二号 一九八四年十二月

一九八五年

書から「道」を追放せよ 「朝日新聞」 一九八五年一月五日

苦渋と感傷の中国吟 『中国感傷』 近藤芳美著（書評） 角川書店「短歌」

一九八五年二月

*【】は、宮田の註。